

【報告書】

与那原町スポーツツーリズム構築委託業務

2026.2.27

ツナグブリッジコンソーシアム

【代表構成員】

住 所：うるま市赤道10-10A-1 NRGシェアオフィス内
商 号：一般社団法人ツナグミライ
代表者名：堂本 尚吾

【構成員】

住 所：大阪府大阪市北区豊崎3丁目5-15-2F
商 号：株式会社ランブリッジ
代表者名：余吾 由太

Chapter
01

事業の背景と目的

本事業の概要と目的



背景

与那原町では、今後のマリンタウン地区の開発・整備を見据え、来訪者を一時的な観光客にとどめず、地域と継続的に関わる関係人口へとつなげていく取組が求められている。その中でスポーツ合宿は、一定期間地域に滞在し、宿泊・飲食・交流を通じて自然に地域と接点を持つことができる有効な手段である。一方、町内ではスポーツ合宿誘致に関する実績やノウハウが十分に蓄積されておらず、受け入れ体制や関係者の役割も整理されていない状況にあった。そこで今年度は、町の規模や現状に即したスモールスタート型の実証事業として本事業を位置づけ、スポーツツーリズム推進に向けた基礎づくりに取り組むこととした。

目的

本事業での課題洗い出し・検証を行い、次年度以降、基本計画策定や合宿・自主トレの本格的な誘致・受入に繋げ、“**スポーツを活用した新たなまちづくり**”に取り組む。

方向性

1. 関係性づくりを重視した受け入れ体制の形成
2. 地域特性を踏まえた合宿形態の検証
3. 次年度展開を見据えた成果と課題の整理

01

受け入れ体制構築

合宿誘致そのものに加え、地域住民・事業者・行政が合宿をどのように受け止め、どのように関わるかという「関係性づくり」に重点を置いた。ワークショップや研修を通じて、合宿を支える側の意識や役割を共有し、地域全体で受け入れる感覚の醸成を図った。

02

合宿誘致での検証

与那原町の規模や既存資源を踏まえ、大規模チーム誘致ではなく、陸上競技（長距離）やセーリング、自主トレーニング等を中心とした、比較的少人数・分散型の合宿や滞在形態を想定した取組を進めた。

03

今後の展開

本事業を単年度で完結させるのではなく、次年度以降の事業展開や予算化につなげることを意識し、取組を通じて得られた成果と課題を整理・言語化することを、今年度のゴールとして設定した。

Chapter
02

受け入れ体制の構築

受け入れ体制構築へのはじめの一步



本事業では、合宿誘致を単なる営業活動として捉えるのではなく、地域内の関係者が合宿を「自分ごと」として理解し、関わるための受け入れ体制づくりを段階的に進めた。ワークショップ、人材育成研修、オープンチャットを通じて、人と人の関係性をゆるやかに編み直すことを重視した。

ワークショップ

地域住民・事業者・行政職員など、多様な立場の参加者が集まり、「合宿とは何か」「自分たちはどのように関われるか」を対話を通じて整理するワークショップを実施した。過去の合宿事例や身近な体験を題材に、合宿を“迎える側”の視点や不安、期待を言語化することで、受け入れに対する心理的ハードルを下げ、共通理解の形成を図った。



人材育成研修

スポーツ合宿の仕組みや関係者の役割を体系的に整理し、「なぜ関係づくりが重要なのか」を理解することを目的に研修を実施した。与那原町の実情や過去実績をケースとして扱い、課題と可能性を構造的に捉える視点を共有した。合宿誘致を一部の担当者に任せるのではなく、地域全体で支えるための考え方の土台づくりを行った。



オープンチャット

ワークショップおよび研修の参加者を中心に、ゆるやかにつながり続ける場としてオープンチャットを設置した。事業情報や合宿に関する話題、町の出来事などを共有することで、関係性を途切れさせず、継続的な接点を生み出すことを狙いとした。公式・非公式を行き来できる情報の流れをつくることで、受け入れ体制の“日常化”を支えるツールとして機能している。

与那原町スポーツ合宿誘致大作戦

オープンチャット開設しました

合宿の情報、みんなでシェアしませんか？

[合宿の情報交換](#)

[合宿告知](#)

[困りごとの相談](#)

ワークショップ



合宿誘致を「特別な取組」ではなく、地域の日常の延長として（自分ごと化）捉えるため、受け入れの第一歩として、関係者が対話を通じて理解を深める場としてワークショップを実施した。

開催概要

- 日時：令和7年10月8日（水）13：30～15：30
- 場所：与那原町上の森かなちホール検診室（与那原町役場横）
- 参加費：無料
- 内容：グループワークを中心に行い、参加者同士で意見交換やアイデア出しを行いながら町の現状や強み、課題を整理し、繋げたい未来を描いていく
- 講師：余吾由太（株式会社ランブリッジ）

ワークショップ実施の目的

地域住民、事業者、行政職員など、多様な立場の関係者が参加し、スポーツ合宿の基本的な仕組みや、地域が果たし得る役割について意見交換を行った。過去の合宿事例や身近な地域活動を題材に、「自分たちは何ができるのか」「どのように関われそうか」を言語化することで、合宿を支える側としての視点を共有し、受け入れに向けた共通理解の形成を図った。

ワークショップを通じて、合宿誘致に対する心理的な距離が縮まり、地域全体で受け入れを考えるための土台が形成された。

作戦会議①

<考える糸口>

- ・思いついたものをできるだけ具体的に書いてみてください。
- ・自分の立場で考えたら、どんな良いことが起きるのか？考えてみてください。

※黄色い付箋に1枚に1つずつ書いてください。

© 2025 Runbridge Inc. All Rights Reserved

<ワーク①>

作戦会議③

**自分たちはどのような形で
関わる事ができるか？**

※書記の方を中心に青い付箋に1枚に1つずつ書いてください。

<個人ワーク1分+全体共有→グループワーク10分>

© 2025 Runbridge Inc. All Rights Reserved

<ワーク③>

ワークショップでの成果



1 | 新規チーム獲得に向けて見えたポイント

ワークショップを通じて、与那原町で新たに合宿チームを受け入れるためには、「受け入れ体制の分かりやすさ」と「町としての意思表示」が重要であることが共有された。

- 合宿誘致の目的・ターゲット種目を明確にすること
- 窓口の一本化や受け入れコンシェルジュ等、初期対応の整理
- 宿泊・食事・移動・練習環境を「セット」で説明できる体制
- 与那原町ならではの海・景観・地域行事を活かした差別化
- SNS等を活用した実績・様子の継続的な情報発信

これらは「まず安心して選んでもらうための土台」として位置づけられた。

2 | リピーター獲得に向けて見えたポイント

継続的な来訪につなげるためには、合宿中だけでなく「合宿前後の関係づくり」が重要であることが強く認識された。

- 合宿前の事前PRやウェルカム感の演出
- 合宿中の細やかな対応と情報の蓄積
- 合宿後の感想ヒアリングと改善のフィードバック
- 写真・特産品・メッセージ等を通じたアフターフォロー
- 地域行事や子どもとの交流による“思い出の蓄積”

「また来たい理由」は施設だけでなく、人との関係性や町の記憶に残る体験にあることが共有された。

ワークショップを通じて、合宿誘致は一部の担当者だけで完結するものではなく、行政、事業者、住民がそれぞれの立場で関わる取組であるという共通認識が得られた。日常の中での小さな関わりや配慮の積み重ねが、結果として「選ばれる町」につながる共有された。本ワークショップは、合宿誘致を特別な取組ではなく、地域の日常の延長として捉え直す一歩となった。

人材育成研修



スポーツ合宿を受け入れるうえで必要となる考え方や視点を共有するため、過去の合宿事例を題材に、実践的な研修を実施した。合宿誘致を「対応」ではなく「設計する」取組として捉えることを目的とした。

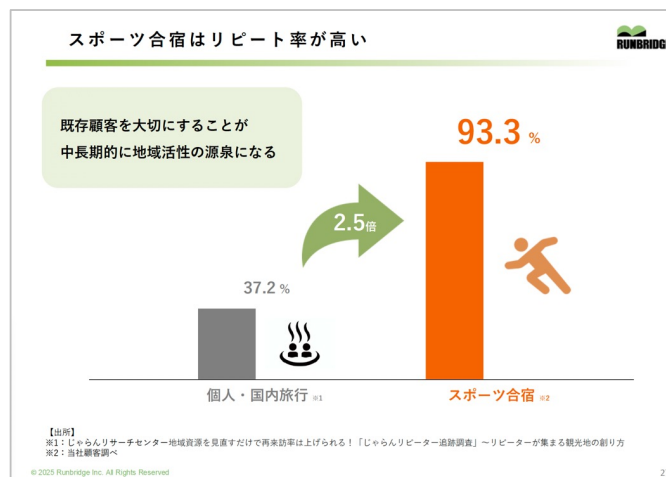
開催概要

- 日 時： 令和7年10月22日（水）13：30～15：00
- 場 所： 与那原町上の森かなちホール（与那原町役場横）
- 参加費： 無料
- 内 容： 講義やワークを中心に行い、スポーツツーリズムの理解を深め、参加者同士で、意見交換やアイデアを出し合いながら地域振興へと繋げるチームを築いていく
- 講 師： 余吾由太（株式会社ランブリッジ）

人材育成研修実施の目的

関係事業者や住民を中心に参加し、過去に与那原町で実施された合宿事例をもとに、合宿誘致における成果と課題を整理した。合宿が成立するまでのプロセスや地域側の関わり方を振り返りながら、評価された点や改善点を共有し、施設や条件だけでなく、人と人との信頼関係や日常的なつながり（社会関係資本）が重要であることを確認した。今後の受け入れ体制や関係づくりに活かす視点を学ぶ場とした。

研修を通じて、合宿誘致に必要な視点や考え方が整理され、今後の取組を検討するための共通の土台が形成された。



< 投影スライド：合宿リピート率に関して >



< 投影スライド：社会関係資本について >

ワークショップ・人材育成研修のアンケート結果



定量結果

	ワークショップ	人材育成研修
満足度	4.4	4.3
理解度	4.6	4.5
意識変化	4.3	4.2

アンケート回答数：ワークショップ (n:23)、人材育成研修 (n:29)

定性結果

- ✓ 「できない」よりも「できること」に目を向けられるようになった
- ✓ 官民・町内連携の可能性に気づいた
- ✓ 合宿の成否は人と人のつながりが大きいと再認識した
- ✓ 目的・ターゲットを明確にする必要性を感じた
- ✓ 「わかる」と「できる」の違いを意識するようになった

ワークショップおよび人材育成研修を通じて、参加者の理解と満足度は高く、合宿誘致を「自分たちの取組」として捉える意識の変化が見られた。あわせて、今後に向けた課題や次に進むべき論点が具体化された。

オープンチャットの開設



ワークショップや人材育成研修で生まれた関係性を一過性で終わらせないため、参加者や関係者がゆるやかにつながり続ける場としてオープンチャットを開設した。

概要

本事業では、スポーツ合宿を継続的に受け入れていくためには、人と人との信頼関係やつながり（社会関係資本）の構築が重要であるとの認識のもと、オープンチャットを設置した。地域内には、事業者同士や住民同士といった身近な関係性（ボンディング型のつながり）がそれぞれに存在している一方で、それらが分断されがちであるという課題がある。オープンチャットは、こうした既存のつながりをゆるやかにつなぎ直し、立場や分野を越えた関係性（ブリッジング型のつながり）を生み出すことを目的としている。

オープンチャットの想定される機能的役割

- ✓ 合宿情報の共有・告知
- ✓ 受け入れ時の困りごとの相談
- ✓ 関係者間のゆるやかな情報交換
- ✓ 合宿をきっかけとした継続的な関係づくり

オープンチャットは、既存の関係性を尊重しながら、分野や立場を越えた新たなつながりを育てるための基盤として機能している。

与那原町スポーツ合宿誘致大作戦 オープンチャット開設しました

合宿の情報、みんなでシェアしませんか？

合宿の情報交換 合宿告知 困りごとの相談



QRコードをスマホで読み取って参加

お問い合わせ先 生涯学習振興課 ☎871-9981

<オープンチャット加入促進のためのフライヤー>

受け入れ体制の現在地

土台としての受け入れ体制を構築のはじめの一步を踏み出した。今後は、コミュニケーション質・量を高めること、ひいては、組織としての構造設計と制度設計を加速させる。



合宿は「宿泊事業」ではなく、地域価値創出のプラットフォームである

◆ **経済的価値の創出**

合宿による宿泊・飲食・交通・物販などの滞在型消費が発生し、単発イベントではなく継続的な地域経済循環を生む。地元企業との連携により、合宿が安定的な収益機会となる基盤を形成。

◆ **社会的価値の創出**

住民交流やボランティア参画を通じて、スポーツを媒介とした関係人口を創出。地域内の横断的な連携が進み、町ぐるみの受け入れ体制が醸成される。

◆ **スポーツ推進**

地元チーム・施設管理者との連動により、競技理解とスポーツ文化が深化。育成・強化・交流が循環する環境を整備し、「スポーツが根付く町」への発展を促進。

これらのステークホルダーを結合させたことで、スポーツ合宿受け入れの土台形成ができた。

受け入れ体制構築の成果

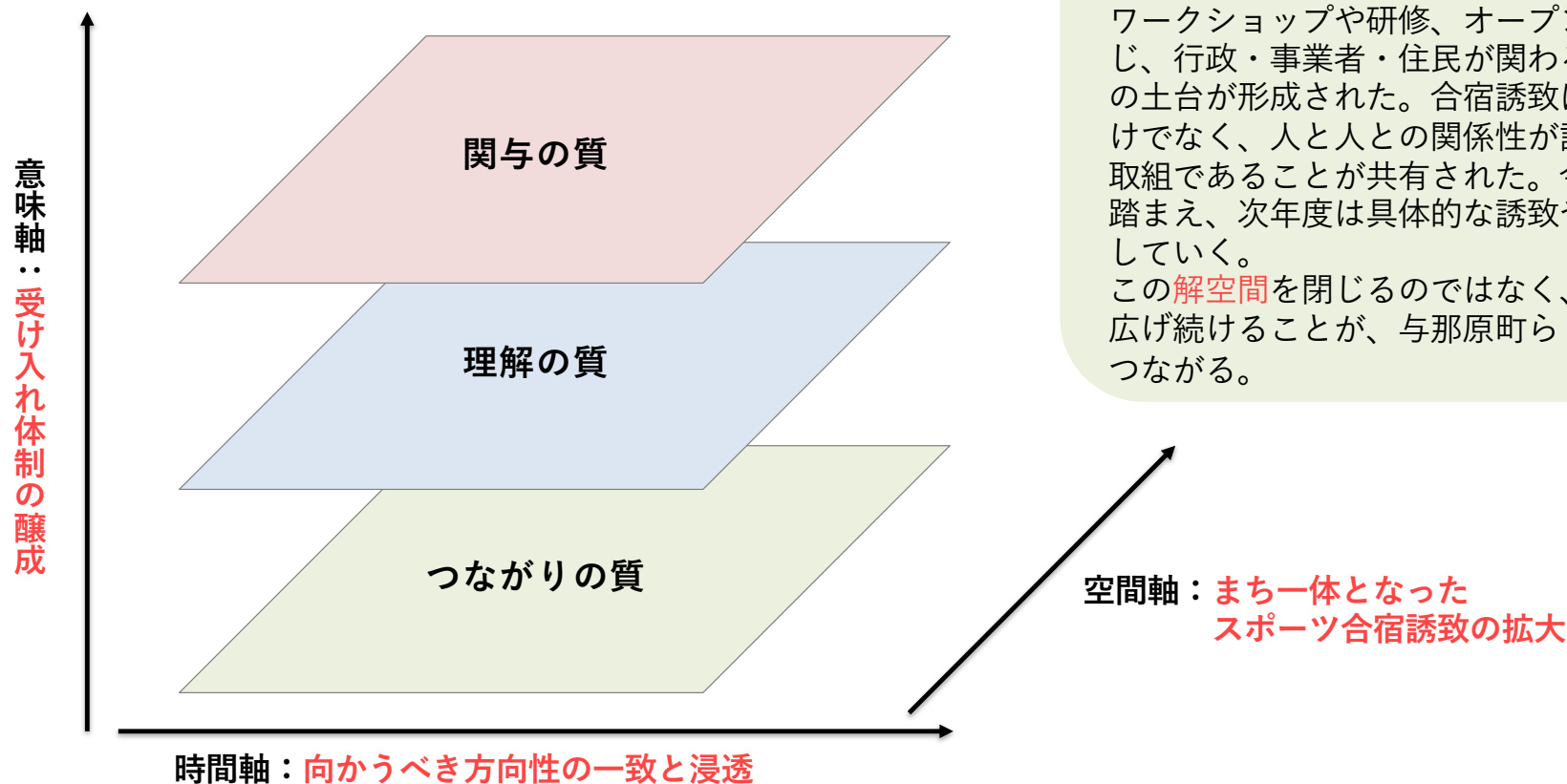
成果

関係づくりと理解の共有が進み、合宿誘致を支える受け入れ体制の土台が形成された。

本事業を通じて、合宿誘致を地域全体で考えるための第一歩を踏み出した。

ワークショップや研修、オープンチャットを通じ、行政・事業者・住民が関わる受け入れ体制の土台が形成された。合宿誘致は施設や条件だけでなく、人と人との関係性が評価につながる取組であることが共有された。今年度の成果を踏まえ、次年度は具体的な誘致や取組へと展開していく。

この解空間を閉じるのではなく、次年度以降も広げ続けることが、与那原町らしい合宿誘致につながる。



Chapter
03

スポーツ合宿誘致の検証

合宿誘致および調査事業の全体像



本事業では、実際の合宿誘致を行いながら、実施チームおよび未実施チームへのインタビュー、アンケート調査を実施した。実証と対話を通じて、与那原町の強みと課題を構造化し、次年度以降の戦略設計に向けた基礎データを整理した。

合宿誘致

複数競技の合宿を実際に誘致・受入し、練習環境・宿泊・食事・移動・地域連携を含めた総合的な検証を行った。競技ごとに評価された要素と改善点を整理した結果、与那原町は単体機能で勝負する拠点ではなく、ビーチ・公道・屋内施設・生活利便性を組み合わせることで価値を創出する「設計型合宿地」として高い可能性を有することが確認された。機能の量よりも、選択肢の可視化と組み合わせの設計力が競争優位を左右する。



住民交流イベント

セーリング見学会、エキシビジョンマッチ、競技教室などを通じ、住民とアスリートが直接関わる機会を創出した。競技理解の促進だけでなく、子どもたちの目標形成や地域の誇り醸成、アスリート側の地域愛着にも波及効果が見られた。交流は単なる付加価値ではなく、合宿満足度や再訪意向を高める要素であり、競技強化と地域価値創出を両立させる重要な戦略要素であることが明らかとなった。



アンケートインタビュー

実施チームおよび未実施チームへのヒアリング・アンケートを通じ、合宿地選定の判断基準と意思決定構造を整理した。温暖な気候や観光資源のみでは決定打とはならず、競技強化と統合した環境設計、実戦機会、医療・ケア体制、運営の柔軟性などを含めた「総合提案力」が不可欠であることが明確になった。与那原町は今後、「環境の魅力」から「競技を育てる拠点」へ進化する段階にある。

令和7年度 与那原町スポーツツーリズム構築事業 検証アンケート (定量調査)				
① 概要				
団体名	日本女子体育大学/レーボール部			
合宿期間	開始日	2026年2月6日 金曜日	終了日	2026年2月12日 木曜日
選手人数	18 人	スタッフ人数	2 人	(※: 監督・コーチ・トレーナー等)
② 宿泊				
宿泊先	与那原ホテルSUNRIZE・OCEAN			
	種類	延べ人数 (人泊)	朝食 (有/無)	
宿泊費	円	120 人	無	

陸上競技合宿



団体名：関西駅伝 選抜強化合宿

合宿概要

日程：2025年12月29日～2026年1月1日

人数：4名 延べ泊数：12泊

宿泊場所：与那原ホテルSUNRIZE・OCEAN/
民泊施設 (Airbnb・琉球タワー与那原マリーナ)

練習会場：与那古浜公園、ていーだぬなー
ロード、与那古浜公園周辺ロードコース



実施内容・滞在の特徴

関西駅伝選抜による年末年始強化合宿を実施。与那古浜公園や町内公道を活用した長距離練習は十分な水準にあり、距離表示等の整備で更なる向上が可能と確認された。宿泊はサンライズオーシャンを利用し、長期滞在に適した環境と地域連携による食事体制も評価された。新春マラソンや交流も行い、「競技×地域」を体現する合宿となった。

ヒアリングにおける気づき

- 長距離練習環境は現状で十分機能
- トレーナー（鍼・マッサージ）体制整備は大きな付加価値
- 自転車・距離マーカーなど“ちょい足し整備”で完成度向上
- 2～3月がコスト・学生動向的に最適時期
- 企業協賛型強化モデルの可能性あり

次年度以降に向けて

与那原町は、単なる合宿受入地ではなく、「沖縄県女子長距離育成拠点」へ発展する可能性を有する。他県学生の誘致→地元中高生との連携→移住・就職→都道府県対抗駅伝強化というエコシステム構築が提言された。また、住友生命Vitality等を活用した健康増進施策と合宿財源確保を組み合わせることで、「町民の健康」と「競技強化」を同時に実現する持続可能モデルの構築が示唆された。

セーリング合宿

団体名：与那原セーリング（IQFoil）合宿チーム

合宿概要

日程：2026年1月9日～1月21日
人数：2名
延べ泊数：17泊
宿泊場所：民泊（Airbnb・一棟貸し）
練習会場：与那原マリーナ



実施内容・滞在の特徴

与那原町は、練習拠点・宿泊・生活機能がコンパクトに集約されており、移動ロスが少なく、合宿時間を最大化できる環境であった。与那原の海域はフラットな海面特性を有し、iQFOiL種目における技術練習やマーク練習に適している点が高く評価された。

ヒアリングにおける気づき

- フラットな海面はiQFOiL・ディンギー双方に適性が高い
- コンパクトな街構造により、時間効率の高い合宿が可能
- 民泊＋自炊は競技特性と相性が良い
- マリーナ内動線、機材保管、トイレ配置は改善余地あり
- 救助艇の公的貸与スキームは誘致力向上の鍵
- 高校部活動との交流など、地域への波及効果が確認された

次年度以降に向けて

セーリング合宿は、大規模施設整備を前提とせず、競技特性に合った海域と柔軟な宿泊・生活環境を整えることで成立することが確認された。今後は、救助艇や機材保管等の環境整備を段階的に進めるとともに、競技団体との継続的な関係構築を通じ、リピートや他種目への展開を図ることが重要である。

バレーボール合宿



団体名：日本女子体育大学バレーボール部

合宿概要

日程：2026年2月6日～2月12日

人数：20名（選手18・スタッフ2）

延べ泊数：120泊

宿泊場所：与那原ホテルSUNRIZE・OCEAN

練習会場：西原きらきらビーチ



実施内容・滞在の特徴

- ・西原きらきらビーチを活用した砂浜トレーニングを中心に実施
- ・宿泊はサンライズオーシャンを利用し、自炊型滞在で生活面も自己管理
- ・寮生と通学生の混在チームであり、技術向上に加えチームビルディングも重視
- ・地域高校との交流試合、町内小中高生向けバレーボール教室を実施
- ・宿泊施設からビーチまでランニング移動（約20分）という合宿環境

ヒアリングにおける気づき

- 沖縄の温暖な気候と海辺環境は、ビーチトレーニングに適した魅力的な環境
- 合宿では「競技力向上」と「チームビルディング」の両立が重要
- 医療・トレーナー体制は合宿地選定において重要な要素
- 自炊環境やスーパーの近接など、生活利便性は高評価

次年度以降に向けて

本合宿の検証を踏まえ、次年度以降はビーチ・屋内施設・ウエイト環境を組み合わせた複合型トレーニング環境の整備を検討する。また、マリンアクティビティを活用したチームビルディングプログラムの開発や、医療・ケア体制の明確化を通じて、競技面と安全面の双方を高める必要がある。さらに、交流試合や教室をパッケージ化した地域連動型モデルを構築し、「競技×生活×交流」を一体化した合宿提案へと発展させていく。

アンケート・インタビュー調査の方向性（提案書記載）



今後のスポーツツーリズム推進に向け、以下内容で調査を行い合宿誘致の可能性を探る。同時に現合宿の状況・選定経緯についてもヒアリングを実施、精度の高い検証を行う。

	内容（案）
調査対象	3競技 計6団体・個人（誘致する3団体・個人含）
調査手法	アンケート・インタビュー調査（オンライン含）
調査内容	<p>① 合宿実施の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施期間 ・活用施設（スポーツ施設・宿泊施設） ・医療施設や食事管理、他連携先 ・実戦機会の有無/確保 <p>② 受入先の体制・対応及び要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソフト、ハード面における要望に対する対応や回答 ・安全管理への取組み ・地域の特色を活かした取り組み、練習外での地域貢献・連携 <p>③ 受入による課題、地域との親和性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後に向けた課題や要望 ・スポンサー等との親和性
検証項目	<p>①与那原町としてスポーツツーリズム推進に必要な要素・</p> <p>②スポーツツーリズム推進にあたり連携が必要な関係主体と役割</p> <p>③地域への経済波及効果・教育的効果・社会的効果</p> <p>④他地域との比較により与那原町にて必要な課題（公有地新施設の活用について）</p>

成果検証により合宿ニーズや地域の課題感を把握した上で、次年度はスポーツツーリズム推進に向けた**基本計画策定や勉強会開催、スポーツコミッション（協議会）設立の検討**に繋げていく。

次年度に向け、先ず本事業にて**地域一体となりスポーツツーリズムを推進する機運を醸成する。**

アンケート・インタビュー調査対象



競技	陸上		セーリング		屋内競技	
種目	中長距離種目	短距離種目	ウインドサーフィン	ディンギー	バレーボール	バドミントン
本事業誘致	○	×	○	×	○	×
調査手法	アンケート インタビュー	インタビュー (選定ポイント)	アンケート インタビュー	インタビュー (選定ポイント)	アンケート インタビュー	インタビュー (選定ポイント)



アンケート（定量調査）にて、消費額（宿泊費・飲食費・施設使用料等）や各施設・環境面の評価を取得し、**数値や割合にて客観性や比較性**を検証する。

また、インタビュー（定性調査）では、**数値化できない言語情報や感情、行動理由**などの質的データを扱い、**合宿選定の背景や理由の深掘り**を狙う。

本事業で誘致しない3種目については、合宿選定において必要不可欠な施設・環境面のポイントを洗出し、ソフト、ハード面の課題整理に繋げる。



アンケート・インタビュー調査内容



アンケート（定量調査）※経済効果・評価

	項目	詳細（町内/町外を区別）
1	概要	期間・人数（内、コーチ・スタッフ等）
2	宿泊	宿泊先・宿泊費（直食の有無）
3	飲食	昼食費・場所（方法）・延べ人数 夕食費・場所（方法）・延べ人数 間食費・場所（方法）・延べ人数
4	交通	発地⇄合宿地の移動手段・交通費 バス・レンタカー台数・日数・費用
5	施設	トレーニング場所・施設利用料
6	衣類	ランドリー利用場所・利用料
7	医療	（用途）・場所・利用料
8	娯楽	（目的）・場所・費用
9	その他	日用品購入等
10	評価	①宿泊施設 ②食事環境 ③交通アクセス ④施設・設備 ⑤受入環境 ⑥周辺環境 6項目を5段階評価&評価理由（記述）
11	意見	意見・要望等（記述）

インタビュー（定性調査）

環境について	
1	必要不可欠な施設・環境（選定ポイント）
2	町内の既存施設 ・スポーツ施設 ・宿泊施設 ・食事環境 ・その他施設・受入環境
3	アクセス環境 ・空港からの移動、町へのアクセス ・宿泊施設と練習場所の距離
4	医療環境 ・救急病院、事前に必要な病院との連携等
5	その他意見・要望・期待・改善点等
自治体との交流・連携について	
1	教育面で直接寄与できる活動について （スポーツ教室・指導者講習の開催等）
2	その他（社会面・観光面）の連携について （商品開発・本拠での合宿地PR住民・ 多様な世代間交流・コミュニティ形成等）

アンケート・インタビュー調査検証項目



①与那原町としてスポーツツーリズム推進に必要な要素

- ・ハード面・ソフト面それぞれの強み・弱みの明確化（誘致に至らない競技・種目含）
- ・他地域との連携も視野に入れた“強みの強化”と“弱みの補完”の示唆出し
- ・公有地の新施設整備における期待値と具体的活用方法

②スポーツツーリズム推進にあたり連携が必要な関係主体と役割

- ・町内それぞれの事業者・関係者・ステークホルダーにおける役割の明確化

③地域への経済波及効果・教育的効果・社会的効果

- ・合宿誘致における各分野・領域における消費額や評価の定量把握、及び期待する効果

④他地域との比較により与那原町にて必要な課題

- ・近隣他地域との経済効果比較による課題と優先施策の抽出

検証を踏まえ、与那原町独自の強みを生かした戦略策定（戦略的競技団体選定）に繋がりたい

公有地土地利用のコンセプト：スポーツツーリズム			
方針：3街区（東浜25番地、107番地、77番地）を整備し、対象地間の連携強化を図る			
対象地	スポーツ・ウェルネス 拠点 (東浜25番地)	宿泊・滞在拠点 (東浜107番地)	芝生の交流拠点 [与那古浜公園] (東浜77番地)
期待するサービス・機能	・近隣にあるスポーツ施設への合宿や自主トレ等との連携 ・アスリートのトレーニング・ケアの対応(スポーツ施設も含む) ・地域住民の心身の健康の維持促進	・スポーツ合宿、一般宿泊の受入れ ・ビジネス対応機能(リモートワーク、ワーケーションへの対応) ・飲食店の機能	・断わり創出の促進 ・公園利用者の利便性促進
施設イメージ	・トレーニング・ケア機能、各種スポーツが実施可能な機能、新たな価値を創造する機能等を持ち合わせた複合施設	・宿泊施設	・カフェ・飲食店(及びランニングステーション等の付帯施設)
整合を図るべき取組	・脱炭素に関する取組 ・減災に関する取組		
事業期間	20年以上	20年以上	20年
事業手法	事業用定期借地	事業用定期借地or売却	Park-PFI
用途地域	第一種住居地域以上	準住居地域 (現行用途)	第二種中高層住居専用地域 (現行用途)

参考：与那原町マリンタウン地区公有地土地利用基本計画【概要版】

【うるま市内消費額の比較（令和5年度、令和6年度）】

	令和5年度		令和6年度		前年度からの増減
	各費目合計	割合	各費目合計	割合	
宿泊費	70,999,159円	43.0%	63,013,397円	39.3%	▲ 7,985,762円
昼食費	12,561,595円	7.6%	16,251,355円	10.1%	3,689,760円
夕食費	8,680,468円	5.3%	29,577,269円	18.5%	20,896,801円
バスレンタル	9,902,980円	6.0%	8,898,920円	5.6%	▲ 1,004,060円
タクシー	940,810円	0.6%	751,428円	0.5%	▲ 189,382円
レンタカー	0円	0.0%	55,472円	0.0%	55,472円
ランドリー費	7,471,500円	4.5%	4,441,310円	2.8%	▲ 3,030,190円
施設使用料	3,351,230円	2.0%	8,506,800円	5.3%	5,155,570円
医療費	26,650円	0.0%	10,000円	0.0%	▲ 16,650円
備品使用料	8,866,606円	5.4%	7,896,075円	4.9%	▲ 970,531円
個人消費	42,397,000円	25.7%	20,786,194円	13.0%	▲ 21,610,806円
市内消費額（総計）	165,197,998円	100.0%	160,188,220円	100.0%	▲ 5,009,778円

参考：令和6年度うるま市「めんそーれうるま！キャンプ・合宿事業」事業報告書

インタビュー調査結果サマリー



与那原町の合宿誘致は可能性を実証した一方で、競技強化と整合する戦略設計の必要性も明確になった。

合宿実施チーム

1.共通して評価されたポイント

- 温暖な気候と自然環境（海・ビーチ・公道）の価値
- 宿泊施設（サンライズオーシャン）の長期滞在適性
- スーパー・飲食環境の利便性
- 地域交流プログラムの可能性
- コンパクトな町ゆへの機動力

2.競技別の特徴的評価

- 長距離練習環境は十分水準（陸上）
- 食事面の地域協力を高評価（陸上）
- 与那原海域の風環境・海域特性を高評価（セーリング）
- 競技理解促進の地域交流が有効（セーリング）
- ビーチトレーニング環境を高評価
- ウェイト設備やマリナクティビティの拡充が課題

3.実施チームから見た本質

実施チームの声から見たのは、与那原は単体機能で勝負する拠点ではなく、海・屋内施設・生活環境・地域交流を組み合わせることで価値が高まる“設計型”の合宿地であるという点である。機能の量よりも選択肢の可視化と関係性の構築が、誘致力を左右する本質である。

合宿未実施チーム

1.共通して見えたハードル

- 競技特性に合った「決定打」が不足。温暖な気候や観光資源だけでは、トップチームの合宿地決定要因にはなりにくい。
- 強化目的との整合性が最優先。実戦機会（練習試合）や専門環境など、「競技力向上に直結する条件」が不可欠。
- 体制・意思決定のスピード。競技団体とのダイレクトな連携や柔軟な対応体制が重要。

2.競技別に見えた具体的な論点

- 複数チームによる合同合宿モデルが必要（バドミントン）
- 艇庫・温浴・ケア施設の整備が誘致の鍵（セーリング）
- JSAFと自治体の直接連携体制が必要（セーリング）
- ロード（公道）、海沿いコース、アップダウンなどの環境バリエーションが重要（陸上）

3.未実施チームから見た本質

未実施チームのヒアリングからは、合宿誘致は「場所の魅力」だけでは成立せず、競技強化と整合した環境設計、実戦機会、ケア体制、運営体制を一体で提示する“総合提案力”が不可欠であることが明らかとなった。戦略的に競技団体と連携し、育成から強化までを視野に入れた拠点化へ進化する可能性が示唆された。

実施チームからは組み合わせ型合宿地としての可能性が確認された。一方、未実施チームからは競技強化と整合した総合提案力の必要性が示された。
与那原町は今後、「環境の魅力」から「競技を育てる拠点」へと進化する段階にある。

アンケート調査結果サマリー①



本事業では、延べ人数・合計消費額・1人1泊単価および費目構成を整理し、うるま市との比較を通じて与那原町の経済波及構造を定量的に検証した。

① 1人1泊単価について

与那原町の1人1泊単価は約7,000～10,000円台で推移し、うるま市と同水準もしくは上回る水準を確認。合宿地としての基礎的価格競争力は確保されている。

② 消費構造は「宿泊偏重型」

宿泊費比率が70～80%を占める一方、娯楽・物販・施設外消費は限定的。滞在型消費の拡張余地が大きい構造となっている。

③ 合宿規模が経済効果を左右

延べ人数が増えると総消費額は大きく伸びる。規模拡大型競技（大学団体・実業団）誘致が経済波及の鍵。

自治体	与那原町						うるま市					
	チーム	日本女子体育大学 バレーボール部		セーリング(iQFOIL)		関西駅伝選抜(陸上)		名古屋経済大学 硬式野球部		コンサドーレ札幌 (バドミントン)		NTN陸上競技部
延べ人数 (人泊)	120		17		12		666		70		140	
合計消費額 (町内)	1,581,297		290,400		148,232		9,187,380		505,352		1564200	
1人1泊単価	10,104		7,000		9,608		9,532		4,857		7,814	
宿泊費	1,212,420	76.7%	119,000	41.0%	115,292	77.8%	6,348,100	69.1%	340,000	67.3%	1,093,950	69.9%
飲食費	207,592	13.1%	45,000	15.5%	27,500	18.6%	902,480	9.8%	45,200	8.9%	463,250	29.6%
交通費	47,400	3.0%	1,000	0.3%	5,000	3.4%	338,000	3.7%	55,472	11.0%	0	0.0%
施設利用料	25,850	1.6%	125,400	43.2%	0	0.0%	98,800	1.1%	0	0.0%	0	0.0%
娯楽・ お土産など	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1,000,000	10.9%	0	0.0%	0	0.0%
日用品	33,000	2.1%	0	0.0%	440	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

【出所：令和6年度めんそーれうるま！キャンプ・合宿事業及び本事業アンケート調査を改編】

与那原町は「単価は確保できるが、消費多様性に課題がある」構造である。今後は規模拡大と滞在消費設計を両輪で進めることで、経済波及効果を量・質ともに引き上げる必要がある。そのため、戦略的競技団体選定および滞在コンテンツ開発が次年度の重点施策となる。

アンケート調査結果サマリー②



本調査では、合宿満足度は総じて高い評価を得た。一方で、医療体制やウエイト環境など、競技強化に直結する要素の明確化が今後の誘致力向上の鍵であることが示された。

経済価値的視点

合宿はイベント型消費ではなく、宿泊・飲食・日用品購入等を含む滞在型消費を伴う継続的経済活動である。本事業を通じて、合宿誘致が地域経済循環の一端を担うポテンシャルを有することが確認された。

顧客満足度

評価点

バレーボール部 : 受入環境 5/5、周辺環境 5/5
セーリング : 受入環境 5/5、周辺環境 5/5
陸上 : 宿泊・食事・交通・施設 ほぼ 5/5

▶ 「人」と「町のコンパクト性」は満点評価

改善点

バレーボール : 施設・設備 3/5 (雨天練習場・ウエイト未確保)
セーリング : 施設・設備 4/5 (ポンツーン改善希望)
陸上 : 更衣室・芝生起伏など具体要望あり

▶ 満足度は高いが、競技強化機能は改善余地あり

合宿地としての基礎評価は十分に高い。今後は競技強化機能を戦略的に設計することで、誘致力は一段階引き上げられる。

Chapter
04

地域住民・関係者との交流

陸上合宿：新春マラソン



実施日：2026年1月1日 場所：与那原パークゴルフ場

目的

合宿の延長線上に地域との接点を作り、トップアスリートの走りや考え方に触れる機会を通じて、合宿を地域の日常の延長として感じてもらうことを目的に実施した。

実施内容

元日の新春マラソン大会にゲストランナーとして出走。大会後に陸上教室を開催し、効率的な走り方やエクササイズを指導町内の小学生を中心に参加があり、トップアスリートの走りを間近で体感する機会を創出した。

参加者の反応

大学生の走りに対し「速い!」「すごい!」といった驚きの声上がり、競技への関心が高まった。
陸上教室では、親子で楽しみながら学ぶ姿が見られ、競技理解と親近感が醸成された。

成果

本取組は、合宿を単なる練習機会ではなく、地域とつながる接点として機能させたものである。
競技を“観る”“学ぶ”体験を通じて、合宿が地域の誇りや応援対象へと変化する可能性が示された。



セーリング合宿：交流イベント



実施日：2026年1月17日 場所：与那原マリーナ

目的

与那原マリーナを拠点に合宿を行うトップ選手の練習を可視化し、地域住民が競技を「知る・観る・感じる」機会を創出することを目的に実施した。

実施内容

1. 競技解説・トークセッション：
iQFOiLの仕組み説明やヨットが浮く原理や風との関係を解説
2. 競技見学・実演：
マリーナから海上での高速走行を見学iQFOiL特有の浮いて走る動きやスピードを体感

参加者の反応

本イベントを通じて、ヨットの仕組みや練習内容への理解が深まり、合宿の実態が具体的に共有された。また、選手の声から与那原の海域の特性や強みがアスリート視点で再認識され、地域資源としての価値を捉え直す機会となった。

成果

海を活用する町でありながら、セーリングという競技を知る機会は決して多くない。
本イベントは、合宿を地域資源と接続する第一歩となり、トップアスリートを身近に感じる機会を創出した。

与那原セーリング合宿 交流イベント

空飛ぶ
ウィンドサーフィン の秘密!!
～風のカとIQFoilの超高速走行を見よう in 与那原～

2026年 1月17日 (土) 10:00 ~ 12:00 (受付9:30~9:55)

- 場 所：与那原マリーナ
- 内 容：
五輪種目 IQFoilのダイナミックな走行見学、与那原町内で合宿を実施するトップアスリートのトークセッション、ヨットが走る仕組みの学習（講義）など
- 対象者：小学4年生以上
- 参加費：無料
- 定 員：先着20名程度

※見学・講義と見学のプログラムとなり、体験（乗船等）はございません
気象条件により、内容を変更する場合がありますのでご了承ください

■ 交流イベント参加選手・運営スタッフ (予定)

--	--	--	--	--	--

お申込 受付中

お申込・お問合せ：ツナグブリッジコンソーシアム
tsunagumirai0505@gmail.com
Tel. 090-6847-3589 (担当：堂本) お申込はこちら

【令和7年度与那原町スポーツツーリズム構築事業】

<告知フライヤー>

バレーボール合宿：知念高校との交流



実施日：2026年2月10日 場所：与那原町観光交流施設

目的

合宿を通じて競技力向上を図るとともに、地域の高校生・小中学生との交流機会を創出し、競技を通じた関係づくりを進めることを目的に実施した。

実施内容

- 1.エキシビジョンマッチ：
知念高校女子バレーボール部との対戦を実施
- 2.バレーボール教室：
町内小中高生の経験者を対象に開催

参加者の反応

質問タイムでは時間を超えるほど多くの質問が寄せられ、競技や大学生活に対する関心の高さがうかがえた。
最後には選手一人ひとりが沖縄での印象を語り、地域との心理的距離が縮まる場面となった。

成果

本取組は、合宿を「練習の場」ととどめず、地域の競技力向上と憧れの創出につなげる機会となった。
トップレベルとの接点が、地域の子もたちの目標形成や競技継続の動機づけにつながる可能性が示された。



Chapter
05

本事業の成果・課題

本事業の成果と課題



本事業では、与那原町におけるスポーツツーリズム推進の第一段階として、合宿受入体制の構築、合宿誘致の実証、調査分析を一体的に実施し、次年度以降の本格展開に向けた基盤形成を行った。

成果

① 受け入れ体制の土台形成

ワークショップや人材育成研修、オープンチャットの運用を通じて、行政、事業者、住民が連携して合宿を支える関係性が形成され、合宿誘致を地域全体で推進するための基盤が整備された。

② 合宿誘致モデルの実証

陸上競技、セーリング、バレーボール等の合宿受入を実施し、与那原町が自然環境、コンパクトな都市構造、生活利便性を組み合わせた「設計型合宿地」として成立する可能性を実証した。

③ 戦略設計に向けた基礎データの蓄積

アンケート・インタビュー調査を通じ、合宿地選定の判断要素、満足度、消費構造等を整理し、次年度以降のターゲット競技設定や施策設計に活用可能な基礎データを整備した。

課題

① 重点競技と誘致戦略の明確化

競技強化と整合したターゲット競技を設定し、戦略的な誘致方針とプロモーション設計を進める必要がある。

② 競技強化機能の段階的整備

医療・トレーナー体制、ウエイト環境、練習環境の機能補完など、競技力向上に直結する要素の整備を段階的に進める必要がある。

③ 推進体制・組織機能の構築

合宿誘致を継続的に推進するため、窓口機能の明確化、情報集約・発信体制の整備、将来的なスポーツコミッション等の組織化を進める必要がある。

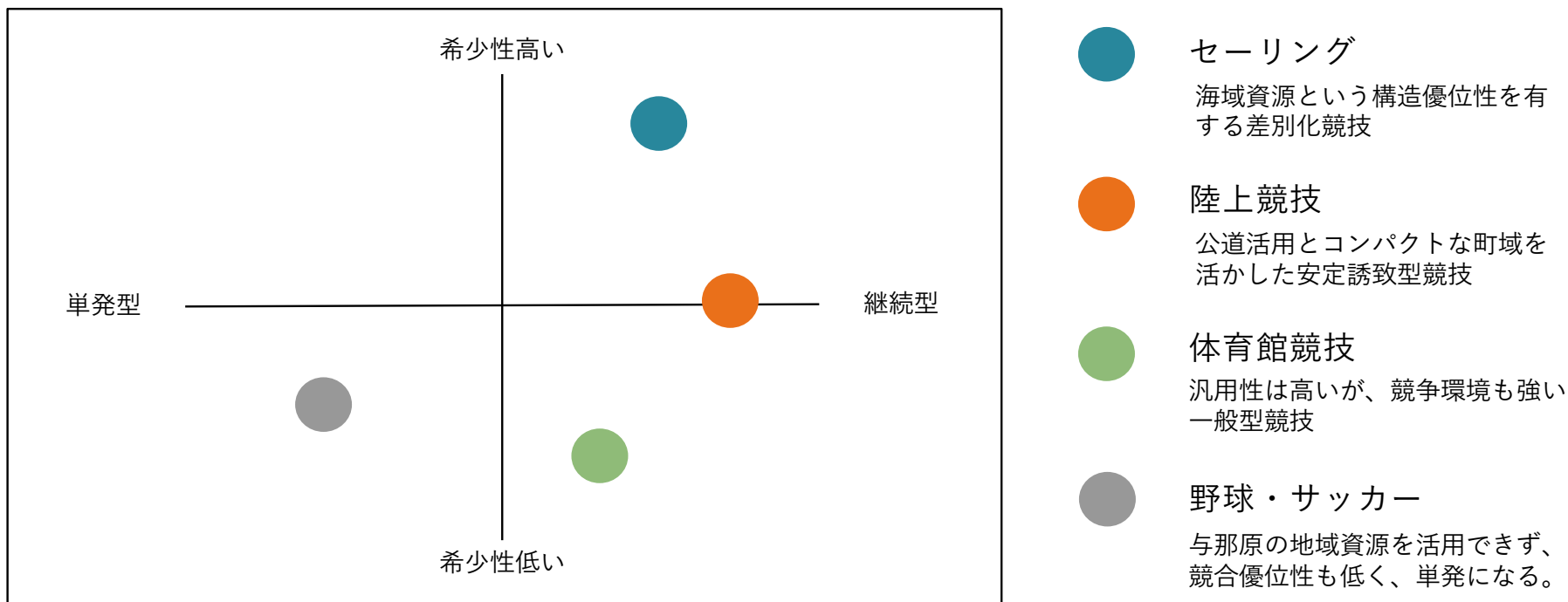
本事業を通じ、与那原町は単なる合宿受入地ではなく、地域資源を組み合わせる価値を設計する「競技を育てる拠点」へ発展する可能性を有していることが確認された。今後は、本年度に形成された関係性、実証成果、基礎データを基盤に、重点競技を軸とした戦略的な体制整備と誘致活動を段階的に推進し、持続的なスポーツツーリズム推進へと展開していくことが期待される。

与那原町が優位性を持ち得る競技領域の整理



本事業での実証およびヒアリング結果を踏まえ、与那原町が競争優位を発揮し得る競技領域を「希少性（他地域との差別化可能性）」と「再現性（継続誘致可能性）」の2軸で整理した。

縦軸：希少性（地域固有資源との適合度）横軸：再現性（毎年安定的に誘致可能か）



与那原町は、海域という構造的に代替困難な資源を有しながら、町域がコンパクトで意思決定距離も短い。この特性は、大規模都市にはない「機動性」と「関係密度」を生み出す。したがって、本町はあらゆる競技を広く狙うのではなく、希少性の高い競技で差別化を図りつつ、再現性の高い競技で安定的な受入を積み重ねる“選択集中型戦略”が適する地域構造にある。

次年度以降のロードマップ



本年度に形成した基盤を踏まえ、与那原町におけるスポーツツーリズム推進を段階的に発展させていくロードマップを示す。

1. 受入機能の構造化

組織立ち上げ及び人材戦略システムを構築し組織の基盤体制を構築する



事業スタート

2. 競技別戦略モデル

各種事業の成長と取り組みを実施し、スポーツを通じたまちづくり文化を根ざす



2027

競技特化モデルの確立（セーリング/陸上等の戦略的育成）

2026

重点競技の継続誘致及び合宿のパッケージ化を推進

2025

事務局機能整備
関係者ネットワーク構築

2028

重点競技を軸とした「競技を育てる拠点」への発展

2029

3. 地域循環モデルの拡張

事業の軌道に乗り、新たな事業や地域課題解決に向けてチャレンジする



外部環境の変化

外部環境の変化に対応するために、新規事業の探索及び既存事業の深化を行う。

1. 推進体制の構築（スポーツコミッション設立に向けた検討）

スポーツツーリズムを継続的に推進するため、行政、観光、宿泊、スポーツ団体、民間事業者等が連携するスポーツコミッションの設立を検討する。あわせて、事務局機能を担う担当部署及び担当人材を明確化し、誘致活動、受入調整、情報発信を一体的に実施できる推進体制を構築する。

2. 重点競技を軸とした戦略的誘致の推進

与那原町の地域特性を踏まえ、重点競技を設定し、競技団体との連携を強化しながら戦略的な誘致活動を推進する。

■ 陸上競技

記録会開催が可能な環境を活用し、「合宿＋記録会」を組み合わせたパッケージ型誘致モデルの構築を検討する。

■ セーリング

海域環境を活かし、競技団体との連携による継続的な合宿誘致及び大会開催の可能性を検討する。併せて、町内のジュニアチーム設立の検討を行う。

■ バレーボール

既存体育施設を活用した受入を推進し、継続的な合宿誘致を図る。

3. マリントウン構想との連動による拠点形成

マリントウン地区において計画されているスポーツ・ウェルネス拠点、宿泊・滞在拠点等の整備構想と連動し、合宿受入機能、トレーニング・ケア機能、滞在機能を一体的に整備することで、スポーツツーリズム推進の中核拠点形成を目指す。

これらの取組を段階的に推進することで、重点競技を軸とした持続的なスポーツツーリズム推進体制の確立を図る。

本事業を振り返って



本事業を通じて、与那原町におけるスポーツツーリズムの可能性を実証的に検証することができました。

受け入れ体制の構築、複数競技の合宿誘致、地域交流の創出という一連の取組を通じて、与那原町は単なる「環境の魅力」に依拠する地域ではなく、競技特性や関係性を設計することで価値を高める「設計型合宿地」としての可能性を有していることが明確になりました。一方で、本事業は完成形ではなく、あくまで出発点です。合宿誘致を一過性の取組に終わらせないためには、目先の成果のみを追うのではなく、5年後、10年後の町の姿を見据えたランドデザインを描き続けることが重要であると考えています。

特に、スポーツを通じて子どもたちが将来の選択肢や目標を描ける環境を整えることは、地域の持続的発展に直結する視点です。競技強化と地域価値創出を両立させる構造をいかに設計し、継続可能な仕組みとして根付かせていくかが、次年度以降の大きな課題となります。

今年度は、スモールスタートによる基礎づくりを行いました。今後は、検証と改善を重ねながら、挑戦を続けていく段階に入ります。トライアンドエラーを前提とし、関係者の皆様とともに歩みを進めることで、与那原町らしいスポーツツーリズムの形を確立していくことができると確信しています。

本事業に携わる中で、スポーツが生み出す人と人とのつながりの力を、あらためて実感いたしました。その力を未来へと繋げていく決意です。本事業にご協力いただいたすべての皆様に、心より感謝申し上げます。

一般社団法人ツナグミライ
代表理事 堂本 尚吾

本事業では、スポーツ合宿誘致の推進に取り組んできましたが、その原動力となるのは、地域に関わる多様なステークホルダーの存在です。地域の事業者や関係団体をはじめ、一人ひとりが主体的に関わり、活躍してこそ、継続的なスポーツ合宿誘致は実現します。すなわち、優れた施設などのハード環境だけではなく、組織やコミュニティの形成、人々の行動変容を促す仕組みづくりが極めて重要です。

アンケートやインタビューの結果からも、与那原町の受入姿勢や地域の温かさは高く評価されており、今後はこうしたソフト面の強みを、施設整備などのハード面と適切に接続し、組織として持続的に機能する仕組みへと発展させていくことが求められます。その実現には一定の時間を要しますが、関係者が互いに理解を深め、つながり、関与していくプロセスそのものが、地域に新たな価値を生み出していくと考えています。

今後も、与那原町が持つ人の温かさという強みを大切にしながら、スポーツ合宿受入を通じた地域の発展に少しでも貢献できれば幸いです。

株式会社ランブリッジ
代表取締役 余吾 由太

Chapter
06

Appendix

ワークショップ参加者名簿



ワークショップ (23名)

	氏名	所属	部門
1	仲里 達也	与那原町体育協会	スポーツ関係
2	宮城 太一	与那原町スポーツ推進委員	スポーツ関係
3	金城 桃子	与那原町スポーツ少年団	スポーツ関係
4	上地 かおり	リーモコ (カフェ)	飲食店
5	宮城 咲希	与那原町ジュニアリーダー	学生 (首里高校)
6	相羽 としえ	東浜区	評議員
7	佐川 瞬	照正組	建設業
8	照屋 圭太	照正組	建設業
9	田村 風威	YUKAZE	コンサルティング
10	安仁屋 圭乃	YUKAZE	コンサルティング
11	譜久里 武	アスリート工房	スポーツ関係
12	屋比久 隆生	日本スポーツプロジェクト協会	スポーツ関係
13	与儀 哲郎	ホテルサンライズオーシャン	宿泊業
14	石田 秀俊	与那原マリーナ施設長	スポーツ施設
15	西銘 剛	シーエンジニアリング沖縄	スポーツ施設
16	望月 毅	シーエンジニアリング沖縄	スポーツ施設
17	与那覇 雅美	与那原町観光交流施設長	スポーツ施設
18	城間 沙貴人	与那原町観光交流施設	スポーツ施設
19	伊良波 朝章	Wウイング (サッカークラブ)	スポーツ関係
20	大城 英永	町民	町民
21	仲宗根 あやの	地域コーディネーター	町民
22	玉木 りこ	与那原まちづくり推進協議会	まちづくり関係
23	國吉 拡	与那原町企画政策課	まちづくり関係

人材育成研修 (29名)

	氏名	所属	部門
1	仲里 達也	与那原町体育協会	スポーツ関係
2	大木 太平	みーじま共同売店	飲食店
3	宮城 咲希	与那原町ジュニアリーダー	学生 (首里高校)
4	運天 永遠	沖縄銀行	金融
5	相羽 としえ	東浜区	評議員
6	佐川 瞬	照正組	建設業
7	仲村 美咲	YUKAZE	コンサルティング
8	安仁屋 圭乃	YUKAZE	コンサルティング
9	石田 秀俊	与那原マリーナ施設長	スポーツ施設
10	西銘 剛	シーエンジニアリング沖縄	スポーツ施設
11	望月 毅	シーエンジニアリング沖縄	スポーツ施設
12	与那覇 雅美	与那原町観光交流施設長	スポーツ施設
13	城間 沙貴人	与那原町観光交流施設	スポーツ施設
14	伊良波 朝章	Wウイング (サッカークラブ)	スポーツ関係
15	仲宗根 あやの	地域コーディネーター	町民
16	山口 郁子	一般公募	町民
17	浜川 愛	一般公募	町民
18	仲里 直哉	一般公募	町民
19	仲本 満	一般公募	町民
20	饒波 夏紀	一般公募	町民
21	福地 大輔	一般公募	町民
22	上原 陸	与那原町生活環境安全課	まちづくり関係
23	与那城 隆聖	与那原町学校教育課	まちづくり関係
24	平仲 優斗	与那原町まちづくり課	まちづくり関係
25	宮城 聖子	与那原町上下水道課	まちづくり関係
26	當眞 禮子	与那原町福祉課	まちづくり関係
27	金城 政絵	与那原町福祉課	まちづくり関係
28	照屋 基	与那原町健康保険課	まちづくり関係
29	徳元 琴歌	与那原町会計課	まちづくり関係

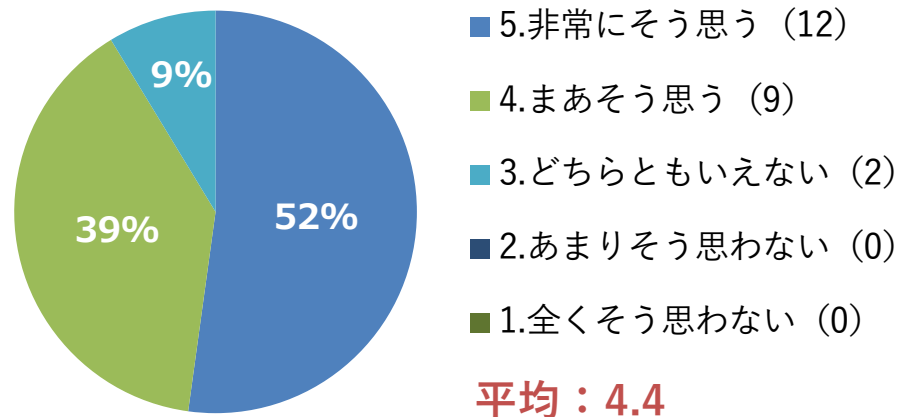
ワークショップ/アンケート結果



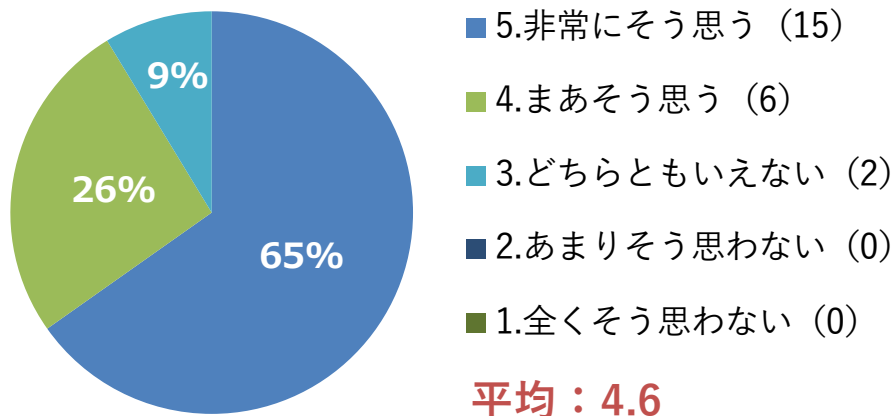
概要

- 日時：令和7年10月8日（水）13:30～15:30
- 場所：与那原町上の森かなちホール検診室
- 題名：与那原スポーツツーリズム誘致大作戦～ビジョン策定編～
- 講師：余吾 由太（株式会社ランブリッジ代表）
- 参加者：23名

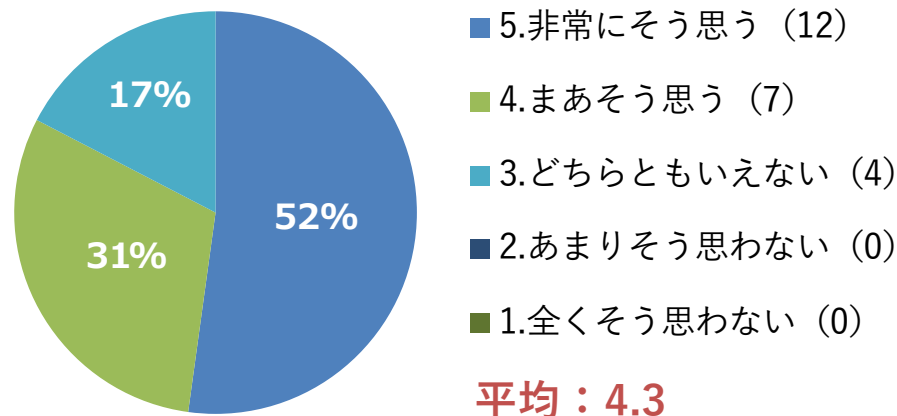
1. 満足度（全体を通して満足する内容でしたか）



2. 理解度（内容は理解できましたか）



3. 意識変化（意識の変化はありましたか）



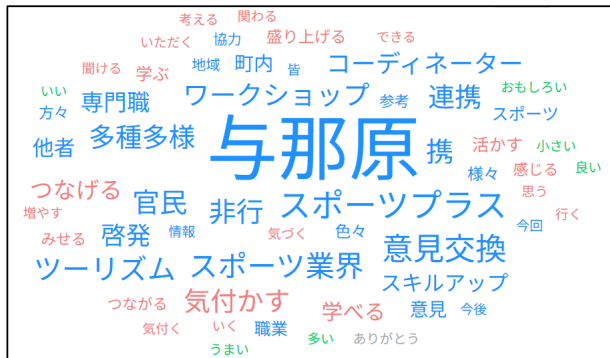
ワークショップ/アンケート結果



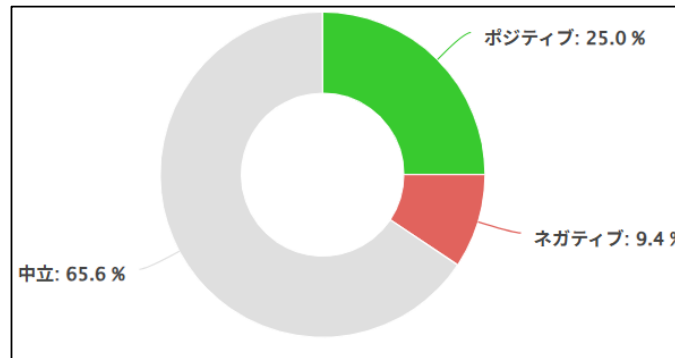
4. WSを通しての気づきや、今後活かしていきたいと思ったことについて（自由記述）

テキストマイニング

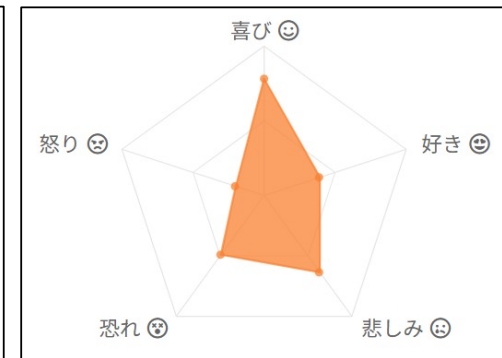
・ワードクラウド



・ポジネガ



・感情



一部抜粋

- 皆で協力すると実現できそうなことが意外とあるなと思いました。
観光系の部署にいるので、もっと与那原を盛り上げられるよう知識を増やしたいと思いました。
- 町内・県内事業との連携でできない事よりできることの方が多いのでは、と気付かされました。
- 皆様との意見交換で意識が変わりました。今後、地域の方と連携して出来る事から携れたらと思います。
- 小さい町ですが様々な専門職の方やネットワークを持っている方がいることがわかったので官民合同が 必須だと感じました。
- 各スポーツ合宿が何故か来たのか、何故来なくなったのか、は関係者しか知らない情報なので今後も 共有したいし情報を取りに行きたい。

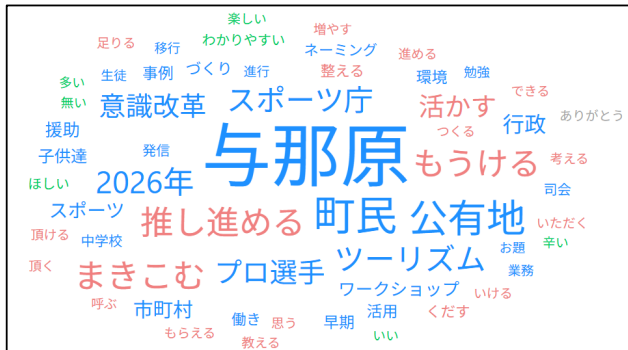
ワークショップ/アンケート結果



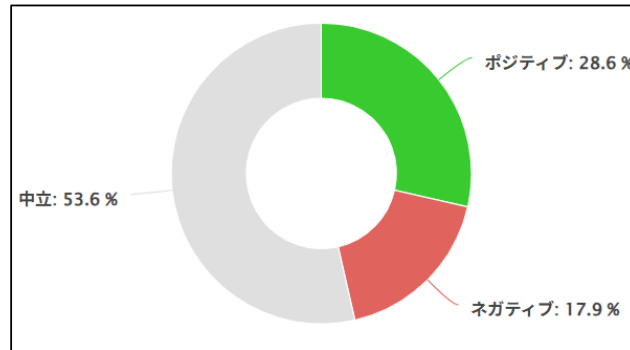
5. その他、ご意見や感想、講師や与那原町へ伝えたいこと等（自由記述）

テキストマイニング

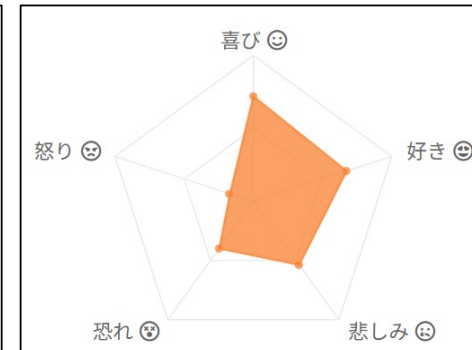
・ワードクラウド



・ポジネガ



・感情



一部抜粋

- 行政と町民の方でもっと情報を共有して町民をまきこんでいけたらいいと思います。
- 是非このような機会を増やしていただきたいです。
- 事前にお題を教えてほしかった。考える時間が足りなかった。
- 早期にネーミングをつくるべき。ゴールを設定して話を進めていくべきでは。
- 町民全体に意識改革できたらいいなと思う。スポーツの力をもう少し考えてほしい。
- 今ある与那原の魅力を活かし、もっと多くの人に知ってもらい発信していけたらと思います。
- 今日のこと・やってみたいことを本業務内でどのように活用するのか、イメージが持ち辛かったので次回説明があるとわかりやすいと思いました。

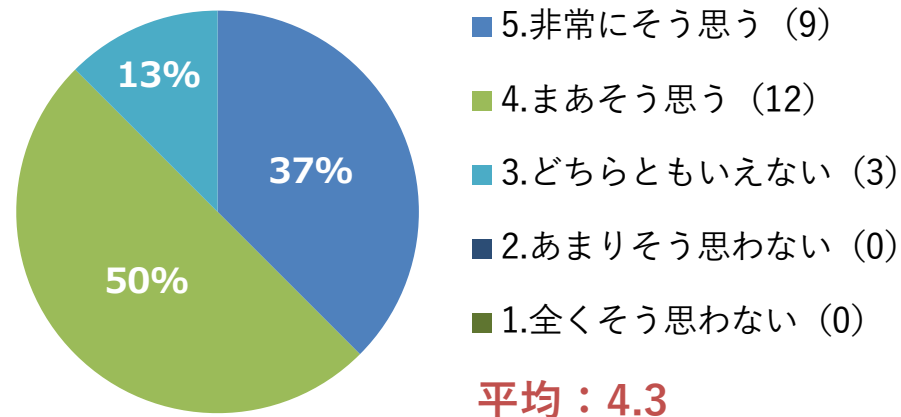
人材育成研修/アンケート結果



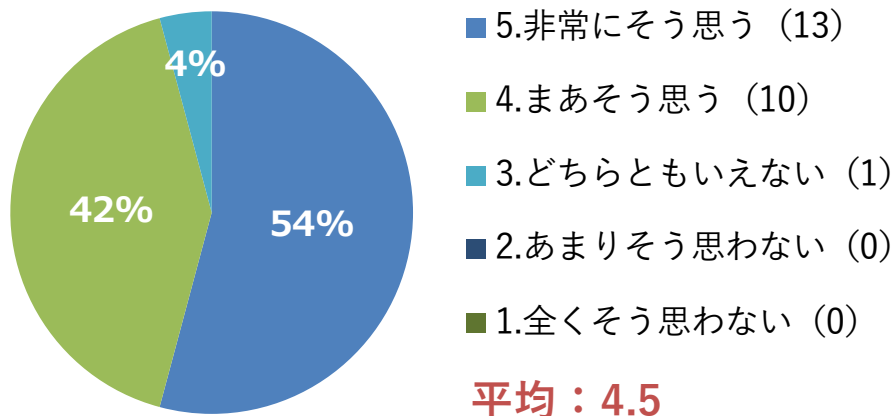
概要

- 日時：令和7年10月22日（水）13:30～15:00
- 場所：与那原町上の森かなちホール
- 題名：与那原スポーツツーリズム誘致大作戦～おもてなし編～
- 講師：余吾 由太（株式会社ランブリッジ代表）
- 参加者：29名（アンケート提出24名）

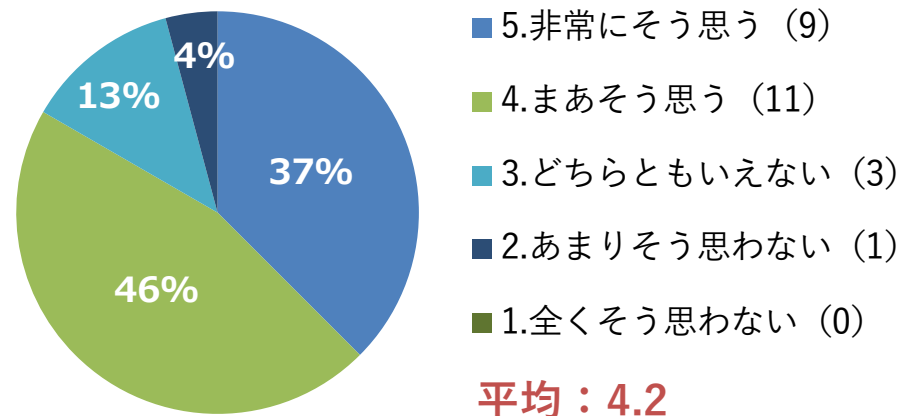
1. 満足度（全体を通して満足する内容でしたか）



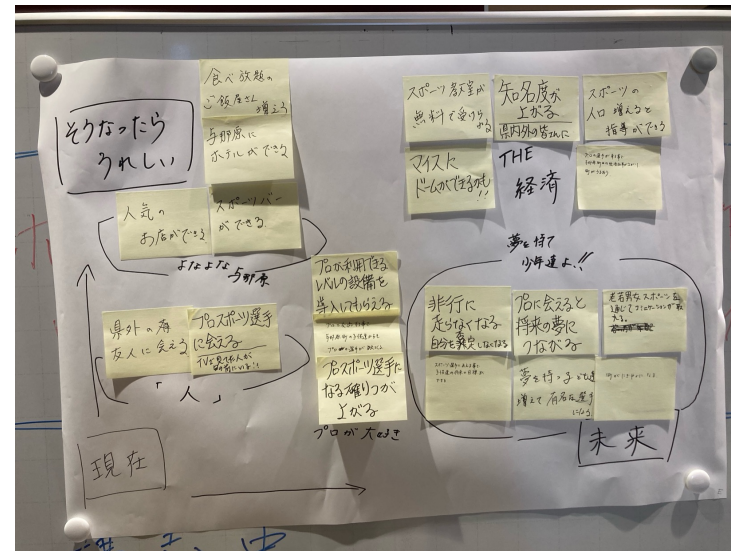
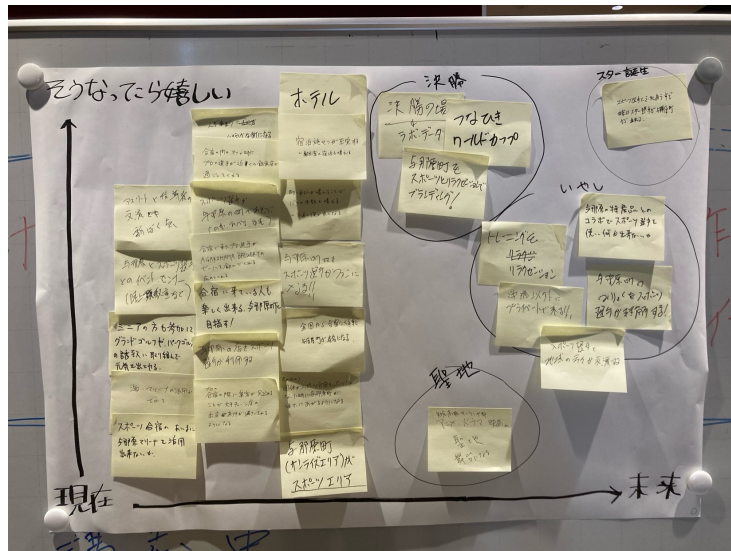
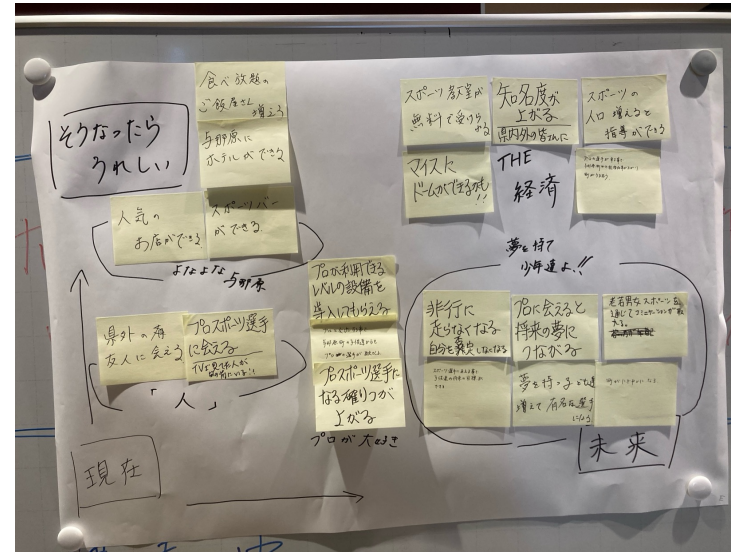
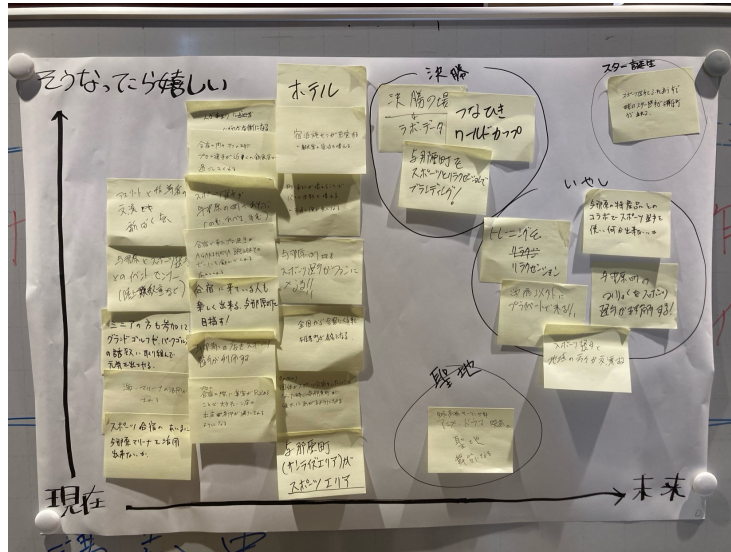
2. 理解度（内容は理解できましたか）



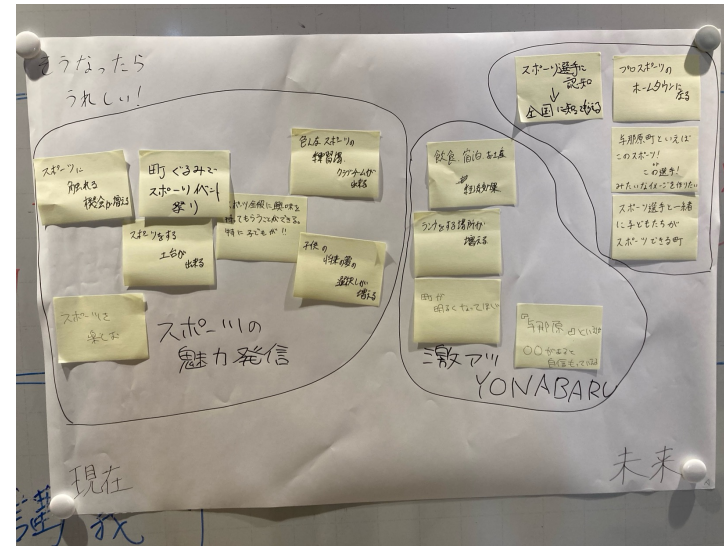
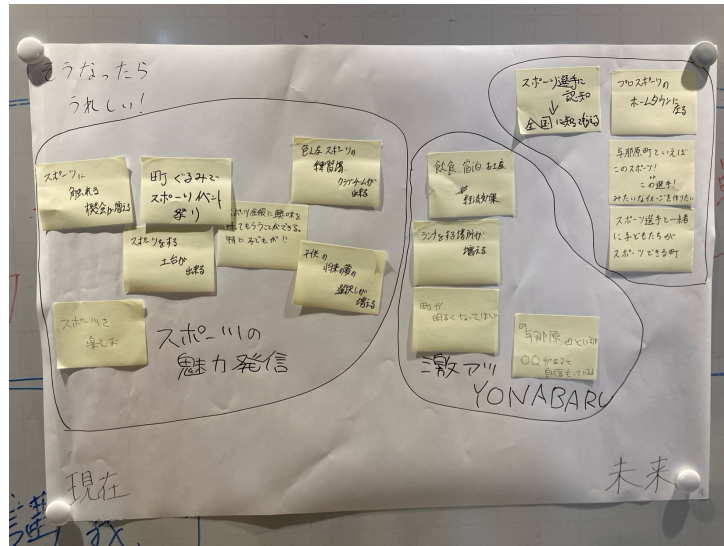
3. 意識変化（意識の変化はありましたか）



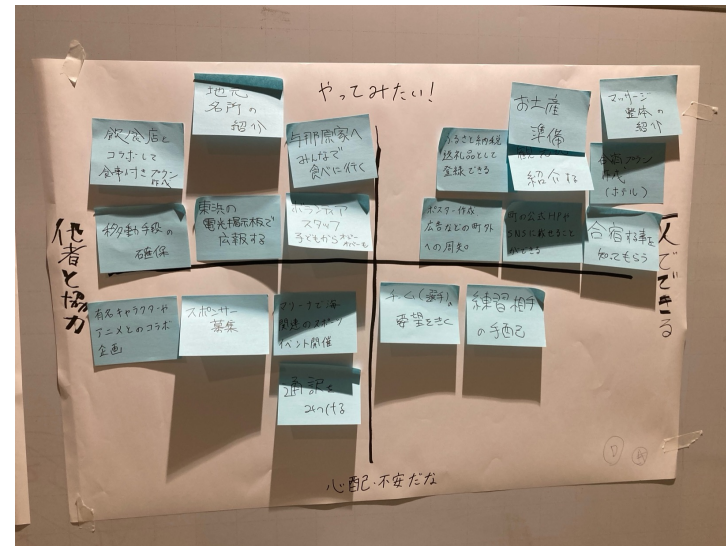
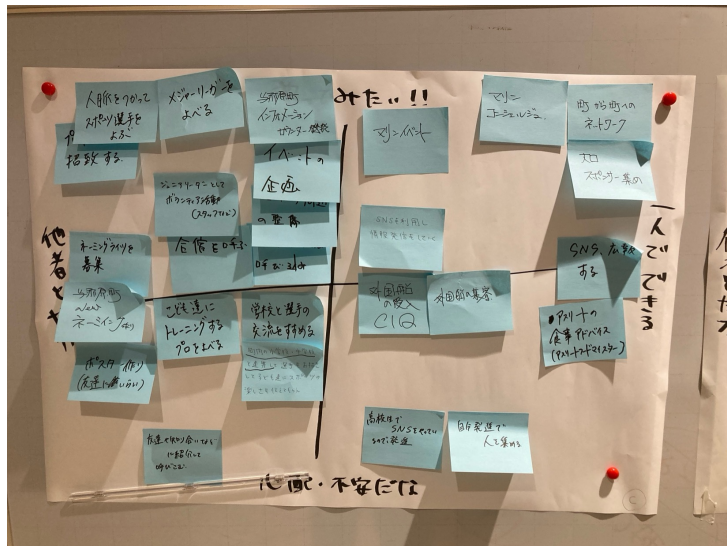
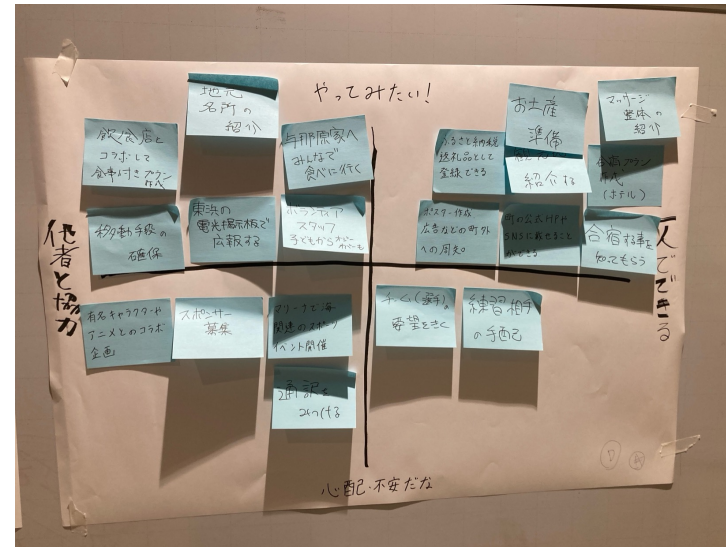
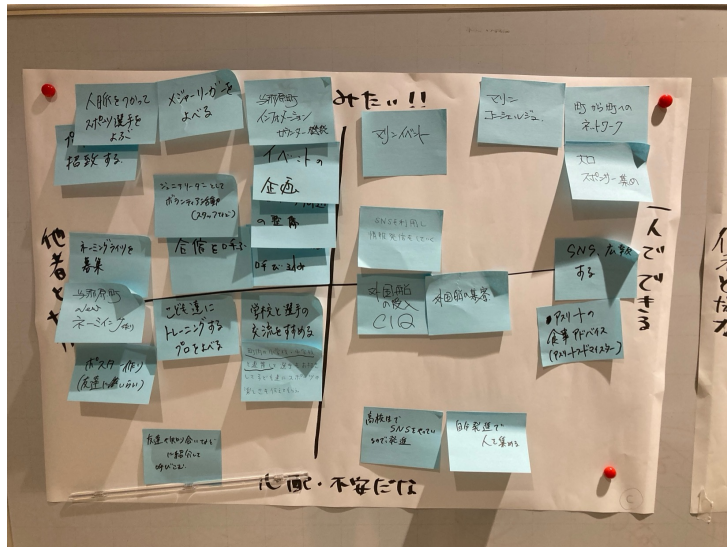
ワークショップのアウトプット①



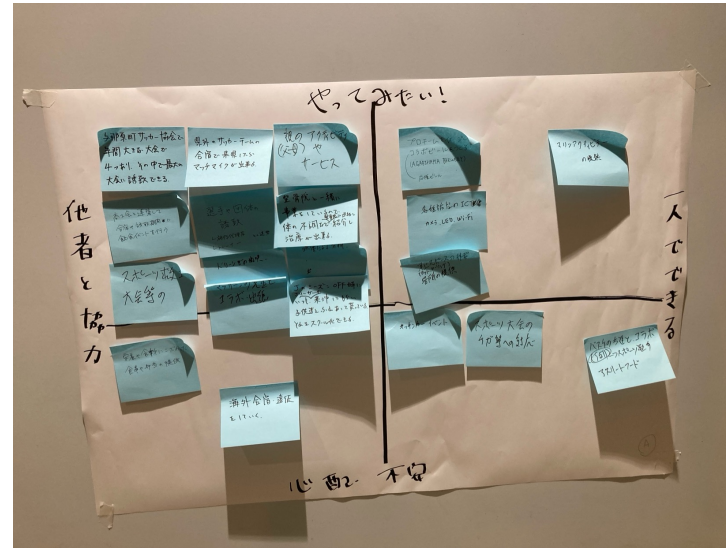
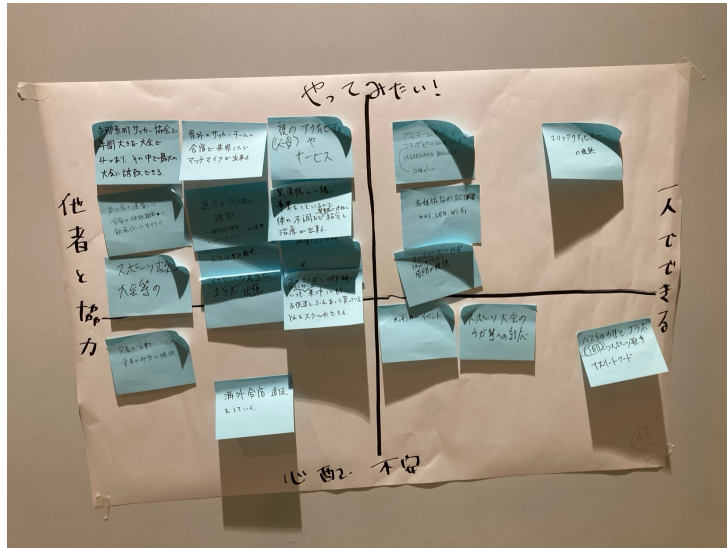
ワークショップのアウトプット③



ワークショップのアウトプット⑤



ワークショップのアウトプット⑥



陸上合宿・地域交流プログラム



セーリング合宿・地域交流プログラム



バレーボール部合宿・地域交流プログラム



プログラム時の注意案内



スポーツ合宿における練習見学をされる方へ

スポーツ合宿を安全かつ円滑に実施するため、練習を見学される皆様におかれましては、以下の事項を必ずお守りくださいますようお願いいたします。

■見学時

トレーニング場所（施設）への立ち入りは固くお断りいたします。

トレーニング場所付近での大声での声かけ、通路の占拠等をご遠慮ください。

■選手・関係者への配慮

選手・スタッフへの接触、無断での声かけ、サイン・写真撮影の要求はご遠慮ください。

■撮影・SNSについて

選手およびスタッフへ許可を得て撮影した写真・動画の取り扱いについては、チームのルールを遵守してください。

その他

天候やチーム事情により、内容の変更・中止となる場合があります。

皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

エキシビジョンマッチを見学される皆さまへのお願い

以下の事項についてご理解とご協力をお願いいたします。

■観戦エリアについて

見学される皆さまは、指定された観客席以外への立ち入りはできません。

通路・非常口・出入口付近での滞留はおやめください。

■選手・チーム関係者への配慮

試合中およびウォームアップ中の選手、審判、チームスタッフへの声かけ、接触、サインや写真撮影の依頼は禁止いたします。試合進行や競技の妨げとなる行為は固くお断りいたします。

■応援・観戦マナーについて

鳴物による応援、その他安全管理に支障をきたす応援用具の使用は厳禁です。

■撮影・配信・SNS投稿について

試合中の写真・動画撮影は、禁止とします。

■体育館利用に関する注意事項

施設内は土足禁止です。必ず上履きまたは室内用シューズをご利用ください。

ゴミは各自でお持ち帰りください。

■運営上の注意

スタッフおよび係員の指示には必ず従ってください。

注意事項をお守りいただけない場合、退場を含む措置を取らせていただく場合があります。

進行内容等は変更となる場合があります。

陸上競技：アンケート結果



令和7年度 与那原町スポーツツーリズム構築事業 検証アンケート（定量調査）

① 概要

回体名	関西駅伝 選抜強化合宿			
合宿期間	開始日	2025年12月29日	終了日	2026年1月1日
選手人数	3 人	スタッフ人数	1 人	例：監督・コーチ・トレーナー等

② 宿泊

宿泊先	与那原ホテルSUNRIZE・OCEAN/民泊施設（Airbnb・琉球タワー与那原マリーナ） ・与那原ホテルSUNRIZE・OCEAN（2泊）		
宿泊費	総額	延べ人数（人泊）	朝食（有/無）
	69,000 円	8 人	無
	・民泊施設（1泊）		
宿泊費	総額	延べ人数（人泊）	朝食（有/無）
	46,292 円	4 人	無

③ 飲食

	総額	延べ人数	主な場所（方法）
朝食費	6,000 円	12 人	自炊
昼食費	8,000 円	8 人	カフェスムージー
夕食費	12,000 円	12 人	カフェスムージー
その他（間食等）	1,500 円	12 人	カネヒデ、サンエー

④ 交通・移動

・発地（拠点）⇒沖縄本島・与那原町（合宿地・宿泊先等）/往復

移動費	総額	移動手段	（備考）
	181,000 円	飛行機	

・合宿期間における交通・移動費（宿泊先⇄練習場所等）

	詳細（事業者名・日数・台数等）	町内	総額
バス			円
レンタカー			円
公共交通機関			円
その他（タクシー等）	走健整備有の車 3日間のガソリン代	○	5,000 円

⑤ 施設利用 ※利用料が発生しない場所・施設等も記載願います

	詳細（施設名・日数等）	町内	総額
場所①	与那古浜公園	○	0 円
場所②	ていーだめなーロード	○	0 円
場所③	与那古浜公園周辺ロードコース	○	0 円

⑥ ランドリー関連

	詳細（店舗名・回数等）	町内	総額
①	なし		円
②			円

⑦ 医療関連施設

	詳細（施設名・用途・目的・回数等）	町内	総額
①	なし		円
②			円

⑧ 娯楽

	詳細（施設名・用途・目的・回数等）	町内	総額
①	なし		円
②			円

⑨ その他（日用品購入・土産等）

	詳細（施設名・用途・目的・回数等）	町内	総額
①	紙皿、紙コップ	○	440 円
②	お土産(国際通り)	×	3,000 円
③	1月1日 夕食代(国際とおり)	×	4,000 円

⑩ 評価

項目	5段階評価	評価理由（記述）
1.宿泊施設	5	洗濯も可能だった為に変助かりました。
2.食事環境	5	ポリウム満点に加えて美味しく、様々な要望に応じて頂きました。
3.交通アクセス	5	那覇市から近くのために移動時の時間が読みやすい
4.施設・設備	5	練習場所から近く、スーパーも近くて助かりました。
5.受入環境	5	歓迎の幕や、年末年始にも関わらず多くの方が対応してくださり学生がとても喜んでくれました
6.周辺環境	4	基本的に徒歩圏内に全て揃っていたため不便はなかったですが、自転車があると学生はより行動範囲が広がったのかなと思います。

⑪ ご意見・ご要望等 ※細かい点を含め忌憚のないご意見を頂戴できますと幸いです

①練習環境は申し分ないと思います。
②陸上の長距離に関しては、与那古浜公園での練習環境で十分に対応可能です。
③与那古浜公園内のランニングコースが1周587mでしたが、外側を走るとちょうど600mになるので、600mになるように、白線を記載して頂くと練習の幅が広がる為により良い環境に。
④与那古浜公園内の芝生広場にもう2ヶ所のコブを作って頂けると、クロスカントリー練習として良い環境になるので、合宿を誘致するにあたってPR出来る。
⑤学生の意見としての与那古浜公園内の、更衣室の件ですが、合宿時の時だけ解放するなど普段は、施設をするなどして、更衣室があると、特に女性チームが合宿に来られた際に安心されると思います。
⑥食事に関しては、なるべく宿から近い場所があると助かります。 自転車があれば、食事の場所が2km圏内なら、学生だけで行くのも可能な為少し離れていても対応可能。

セーリング：アンケート結果



令和7年度 与那原町スポーツツーリズム構築事業 検証アンケート（定量調査）

① 概要

団体名	与那原セーリング (iQFOiL) 合宿			
合宿期間	開始日	2026年1月9日	終了日	2026年1月23日
選手人数	2 人	スタッフ人数	0 人	(例: 監督・コーチ・トレーナー等)

② 宿泊

宿泊先	民泊施設 (Airbnb・国道331号沿いの一棟貸し共有・1泊8,500円)
-----	--

	総額	延べ人数 (人泊)	朝食 (有/無)
宿泊費	119,000 円	17 人	無

※増田琥太郎選手：1/9~1/18 (9泊)、倉持大也選手：1/15~1/23 (8泊) 総額14泊分

③ 飲食

	総額	延べ人数	主な場所 (方法)
朝食費	9,000 円	18 人	自炊 (500円/人回)
昼食費	9,000 円	18 人	自炊 (500円/人回)
夕食費	18,000 円	18 人	自炊 (1,000円/人回)
その他 (間食等)	9,000 円	18 人	購入 (ドリンクゼリー等)

④ 交通・移動

・発地 (拠点) ⇄ 沖縄本島・与那原町 (合宿地・宿泊先等) / 往復

	総額	移動手段	(備考)
移動費	139,160 円	飛行機	荷物オーバーチャージ33千円含

・合宿期間における交通・移動費 (宿泊先⇄練習場所等)

	詳細 (事業者名・日数・台数等)	町内	総額
バス			円
レンタカー			円
公共交通機関			円
その他 (タクシー等)	自動車ガソリン代	○	1,000 円

⑤ 施設利用 ※利用料が発生しない場所・施設等も記載願います

	詳細 (施設名・日数等)	町内	総額
場所①	与那原マリーナ	○	29,400 円
場所②	救助艇レンタル (8日分)	×	96,000 円
場所③	エニタイムフィットネス マリンプラザあがり浜店 (既会員)	○	0 円

※与那原マリーナ：競技艇・救助艇の浮桟橋使用料・保管料等

⑥ ランドリー関連

	詳細 (店舗名・回数等)	町内	総額
①	なし		円
②			円

⑦ 医療関連施設

	詳細 (施設名・用途・目的・回数等)	町内	総額
①	なし		円
②			円

⑧ 娯楽

	詳細 (施設名・用途・目的・回数等)	町内	総額
①	なし		円
②			円

⑨ その他 (日用品購入・土産等)

	詳細 (施設名・用途・目的・回数等)	町内	総額
①	なし		円
②			円
③			円

⑩ 評価

項目	5段階評価	評価理由 (記述)
1. 宿泊施設	4	隣当たりが少々悪いが、最大6名宿泊可であり設備面は満足
2. 食事環境	4	自炊環境に問題無いが、もう少しキッチン用品が充実していると安心
3. 交通アクセス	5	町がコンパクトであり練習拠点 (与那原マリーナ) と宿泊施設が至近
4. 施設・設備	4	一部改善してほしい点や要望があるものの、現状施設で円滑な合宿が可能
5. 受入環境	5	町民をはじめ役場や各施設の担当者に歓迎いただき光栄
6. 周辺環境	5	東浜地区に練習拠点・スーパー・ホームセンター等が集約しており快適な環境

⑪ ご意見・ご要望等 ※細かい点を含め忌憚のないご意見を頂戴できますと幸いです

町がコンパクトで練習拠点・スーパー・ホームセンター等が集約しており快適な環境。各所への移動時間がほとんどなくロスがない為、時間の有効活用が可能。

マリーナ施設について、ボンツーン (浮桟橋) が手狭でスロープまでの距離も遠い為、改善を期待したい。また、トイレの位置 (事務所側) もスロープから遠い為、より近い場所に設置いただくと練習効率上がる。

バレーボール：アンケート結果



令和7年度 与那原町スポーツリズム構築事業 検証アンケート（定量調査）

① 概要

団体名	日本女子体育大学バレーボール部			
合宿期間	開始日	2026年2月6日	終了日	2026年2月12日
選手人数	18 人	スタッフ人数	2 人	(例：監督・コーチ・トレーナー等)

② 宿泊

宿泊先	与那原ホテルSUNRIZE・OCEAN
-----	---------------------

宿泊費	総額	延べ人数（人泊）	朝食（有/無）
	1,212,420 円	120 人	無

③ 飲食

	総額	延べ人数	主な場所（方法）
朝食費	円	120 人	夕食費に含む
昼食費	122,620 円	120 人	西原きらきらビーチ
夕食費	84,972 円	120 人	ホテルなど
その他（間食等）	円	120 人	夕食費に含む

④ 交通・移動

・発地（拠点）⇔沖縄本島・与那原町（合宿地・宿泊先等）/往復

移動費	総額	移動手段	（備考）
	839,945 円	飛行機・バス・電車	羽田⇔与那原

・合宿期間における交通・移動費（宿泊先⇔練習場所等）

	詳細（事業者名・日数・台数等）	町内	総額
バス			円
レンタカー	レンタカー代	×	35,400 円
公共交通機関	観光・移動	○	47,400 円
その他（タクシー等）	レンタカーのガソリン代（返却時）	×	1,635 円

⑤ 施設利用 ※利用料が発生しない場所・施設等も記載願います

	詳細（施設名・日数等）	町内	総額
場所①	西原きらきらビーチ ビーチバレーコート	×	25,850 円
場所②	与那原町観光交流施設（体育館）	○	? 円
場所③	西原高校	×	0 円

⑥ ランドリー関連

	詳細（店舗名・回数等）	町内	総額
①	ホテルに無料設備あり		円
②			円

⑦ 医療関連施設

	詳細（施設名・用途・目的・回数等）	町内	総額
①	今回は該当なし		円
②			円

⑧ 娯楽

	詳細（施設名・用途・目的・回数等）	町内	総額
①	ひめゆりの塔	×	8,000 円
②	つなかん・鉄道資料館	○	円

⑨ その他（日用品購入・土産等）

	詳細（施設名・用途・目的・回数等）	町内	総額
①	手土産（国際通り・那覇空港）	×	10,000 円
②	炊飯用のキットなど	○	3,000 円
③	日用品（サンエーで購入）	○	30,000 円

⑩ 評価

項目	5段階評価	評価理由（記述）
1. 宿泊施設	5	支配人の与儀さんに大変よくしていただいたため。施設も清潔で居心地が良かった。
2. 食事環境	3	炊飯器が無く、選手に大きな負担がかかったため。
3. 交通アクセス	4	概ねよかった。与那原町のバスも貸し出していただいた。
4. 施設・設備	3	雨天練習場の確保ができなかった。観光交流施設体育館はよかった。
5. 受入環境	5	とにかく人が温かく、有り余るホスピタリティだった。
6. 周辺環境	5	とても静かだった。近隣住民とも良い関係で合宿を進められた。

⑪ ご意見・ご要望等 ※細かい点を含め忌憚のないご意見を頂戴できますと幸いです

○炊飯器がなかったことで、選手にかなり負担がかかっていた。もし再度企画する際は、この点が解消されてからと考えている。

○雨天練習場の確保・ウエイト施設の確保ができなかった。一週間合宿をするとなると、最低でも1, 2日は天気が崩れることが考えられる。航空券取得時（半年前）から天候を予測することは不可能であるため、事前に雨天練習場（体育館）を確保しておくことが必須であると分かった。

○西原きらきらビーチ自体は与那原町から通える範囲で、大変よかった。午前練習と午後練習の間に、シャワーを浴びたり、休憩（昼寝含めて）ができる環境を整えられると、より良い強化につながると思われる。

○地域との交流（知念高校との練習試合）ができたことは良かった。日が落ちればビーチはできないため、18:00 - 20:00などの時間帯にバレーボール教室を複数回開催しても良かったのではないかと感じた。

有限会社走健塾 取締役代表：インタビュー結果①



日時：2026年1月8日（木）10:00~11:30

場 所：オンライン（Zoomミーティング使用）

参加者：有限会社走健塾 取締役代表（合宿コーチ）：板倉 具視 様 ツナグブリッジコンソーシアム：堂本、村尾

1. エグゼクティブサマリー

・現状の与那原町の環境は、陸上の長距離競技における合宿地として十分な水準にあり、円滑な合宿運営が可能であることを確認した。また、食事面についても地域の方々の協力により、良好な環境を整えていただき、総じて充実した合宿となった。

・陸上競技を活用した与那原町の地域活性化の可能性や、企業と連携した町民の健康増進施策および資金調達スキームに関する提言について意見交換を行った。

2. 実施合宿の振り返り・評価

① 練習場所・施設について

・長距離の練習において、与那古浜公園や町内公道など現状の環境で申し分ない。白線の記載やコーンの設置など距離の目印（マーカー）があれば尚良し（事前準備にて対応可能）。

② 宿泊施設について

・「サンライズオーシャン」を2泊利用。洗濯機等の設備が整っており、長期滞在に適している。

・今回は「Airbnb」も1泊利用、設備等は問題無し。ただ、団体利用の場合は2名1室で回せるサンライズオーシャンの方が管理・運営面で推奨される。

・低コスト案：シャワー・入浴の問題（近隣の銭湯「環境の杜ふれあい」等を利用）さえ解決できれば、公民館（畳部屋・雑魚寝）での宿泊も十分可能。

③ 食事環境について

・朝食はホテルにて炊飯器を持参して自炊。消化の良いものを板倉氏が準備。今回は4名で問題無かったが、人数が多い場合は炊飯器や調理器具、食器のレンタル数を確保する必要がある。

・昼・夕食は町内カフェ（スムージー）に委託。予算（1人1千円）に対し質・量とも非常に高い満足度。

④ 移動・周辺環境について

・移動手段：今回はコーチ所有の車を使用した。宿泊先から食事場所まで約2kmのため、自転車や徒歩（トレーニング兼）でも対応可能。

・周辺設備：ホテル近隣にスーパー等があり利便性は高い。自転車のレンタルサービスがあれば尚良し（近隣にシェアサイクルのポートがあり活用できる可能性も）。

⑤ 医療・ケア体制について

・病院：陸上長距離は接触プレーがないため、急患（怪我）のリスクは低い。内科（食中毒・インフルエンザ対応）の場所を把握していれば十分。

・トレーナーの重要性：病院よりも「マッサージ・鍼治療」ができるトレーナーの需要が高い。専属トレーナーが帯同しない大学・チームに対し、現地で有料のケア体制（地元の治療院との連携など）を用意することは大きな付加価値となる。

⑥ 地域交流について

・天候には恵まれなかったが、新春マラソン参加と交流プログラムを実施でき有意義な時間となった。

・合宿では常に地域交流の機会を持てるよう各地域の行政へ積極的に働き掛け。子ども対象のスポーツ教室の他、要望があれば指導者講習等の企画も可能。地域の理解やサポートを得る上で本取組は肝要。

⑦ 費用・予算について

・年末年始は、沖縄までのフライト代と宿泊費の高騰に加え、関西圏の学生は主にオフ期間（帰省等）。2~3月だと比較的、移動費と滞在費が抑えられ、学生の合宿誘致に最適な時期と思案。

・費用負担：今回の合宿費用（約35万円+前後泊等）は全て板倉氏（創研塾）の持ち出しであり、参加学生3名の負担はゼロ。

・目的：将来的な「西日本版・箱根駅伝（仮）」構想に向け、西日本の学生を支援するという実績作りのため。実績を積むことで、将来的に企業協賛を募る根拠とする狙いがある。

有限会社走健塾 取締役代表：インタビュー結果②



日時：2026年1月8日（木）10:00~11:30

場 所：オンライン（Zoomミーティング使用）

参加者：有限会社走健塾 取締役代表（合宿コーチ）：板倉 具視 様 ツナグブリッジコンソーシアム：堂本、村尾

3. 今後の戦略・提言（板倉氏より）

① 「沖縄県的女子長距離ランナー育成」をターゲットとした地域活性化モデル

・背景：沖縄県の社会人女子長距離ランナーは、他県に比べてトップアスリートが育成できる環境や仕組みがない（大学や実業団で競技を極められる環境や組織がほとんどない）。

・構想（エコシステム）：

1. 与那原町が他県的女子学生を合宿誘致（またはスポーツ枠採用）。

2. 学生は地元の中高生（知念高校・与那原中）への指導や合同練習を行う。

3. 学生が卒業後、与那原町に移住・就職する。

4. 「沖縄県代表」として都道府県対抗女子駅伝（都大路）に出場し、沖縄県の順位引き上げ（脱47位→30位台）に貢献する。

・効果：

- 地元校（知念高校）の強化による都大路（全国高校駅伝）出場への道筋。

- 「町民・学生・移住者」が一体となった応援コミュニティの形成。

- 人口2万人規模のコンパクトな町だからこそ可能な「町全体でのチーム化」。

② 住友生命「Vitality」を活用した健康増進施策と資金調達スキーム

・課題：沖縄県民の健康問題（肥満や生活習慣病による高い死亡率）とスポーツ事業の財源確保。

・提案スキーム：

1. 町民に「Vitality」への加入を促進。

2. 町や関連団体が定期的にウォーキング・ランニングイベントを開催（ポイント付与対象）。

3. イベント参加費（または企業協賛金）を徴収し、合宿誘致や選手強化費に充てる。

4. 合宿に来たトップ選手がイベントにゲスト参加し、町民と交流する。

・メリット：

- 町民：健康増進、保険料割引、トップ選手との交流。

- 行政：医療費削減、スポーツ予算の確保。

- 企業：加入者増、企業イメージ向上

iQFOiL種目外菌コーチ：インタビュー結果



日時：2026年1月20日（火）17:00~18:00

場所：与那原町内飲食施設（与那原町与那原1112）

参加者：セーリング（iQFOiL種目）コーチ：外菌 潤平 様 ツナグブリッジコンソーシアム：村尾

1. エグゼクティブサマリー

- ・与那原町はコンパクトな街であり、練習拠点（与那原マリーナ・エニタイムフィットネス）・宿泊施設・スーパー・ホームセンター等が集約している為、移動のロスがなく時間の有効活用が可能。合宿実施において最適な環境であるとの評価を得た。
- ・一方で、与那原マリーナ内の動線（機材運搬の距離）や機材の保管場所、トイレの配置といったハード面に課題が挙げられた。

2. 実施合宿の振り返り・評価

① 練習場所・施設について

- ・与那原の海は座間味と比べ「フラットな海面」である為、iQFOiL種目にとって最適な練習環境である。
- ・ディンギー種目においても特に初心者やユース選手の基礎練習や技術習得において非常に価値がある。
- ・また、マーク練習（回航練習）に関しても、水深や風の影響で座間味では実施困難な場合があるが、与那原では実施しやすく利点と言える。
- ・マリーナ施設のハード面について、艇置き場からスロープまでの距離が遠く機材運搬の負担が大きいため、動線の改善を期待したい。また、ポンツーン（浮桟橋）についても現状、手狭である。
- ・トイレの位置（事務所側）もスロープから遠い為、より近い場所に設置いただけると練習効率が上がる。
- ・機材保管について、艇庫があれば最良だが、簡易的にコンテナハウス等があれば尚良い（但し、夏場は高温となり機材が傷むため不適の可能性有）。現状は屋外にカバーを掛けた状態で保管。

② 宿泊施設について

- ・「Airbnb」の一棟貸しを利用。最大6名が宿泊可能だが、今回は最大4名の滞在となり広さ・設備共に問題無し。練習拠点と至近であり時間の有効活用が可能。

③ 食事環境について

- ・宿泊施設で全て自炊にて対応。スーパーも近く食材調達は問題無し。調理器具は更なる充実を期待。

④ 移動・周辺環境について

- ・練習拠点・スーパー・ホームセンター等が集約しており、各所への移動時間に掛かるロスがない。

⑤ 医療・ケア体制について

- ・接触がない競技のため特段、病院との事前連携等は無く、これまで急患対応も発生していない。
- ・身体のメンテナンスの為、接骨院・鍼灸院にかかる事例有（町内“YELL エール接骨院”の利用実績有）。

⑥ 地域交流について

- ・競技普及を目的に地域交流の機会を持てるよう積極的に働き掛けを実施。今回事業で実施した学習プログラム（1/17）に加え、知念高校ヨット部へも見学や合同練習の声掛け済み（1/24-25予定）。

⑦ 費用・予算について

- ・機材運搬など費用が掛かる競技であるが、特に救助艇借用に係る費用負担が重い（民間チャーター：12,000円/日）。県や町が艇を所有し、安価に借用可能なスキームがあるとセーリング競技の誘致の強力な武器となるとともに、町他マリンイベントにも有効活用可能（座間味では同スキームが確立）。

日本女子体育大学バレーボール部：インタビュー結果



日時：2026年2月9日（月）15:00~15:30

場所：与那原町立軽便与那原駅舎展示資料館他、バス移動中車内

参加者：日本女子体育大学バレーボール部監督：湯浅 暁子 様 （一部選手の意見も反映） ツナグブリッジコンソーシアム：村尾

1. エグゼクティブサマリー

- ・大学女子バレーボール部の合宿状況や自チームにおける合宿の狙い・目的を確認できた。バレーボールは屋内競技であるものの、ビーチ（砂浜）トレーニングの重要性、及びニーズがあり温暖な沖縄で実りのある練習ができる良い環境であるとの評価を得た。
- ・一方で、本合宿の練習メニューに無いウエイトトレーニング環境やチームビルディングを目的としたマリンアクティビティなど、幅広い合宿メニューのバラエティ・充実度について課題が挙げられた。

2. 実施合宿の振り返り・評価

- ① 同大学バレーボール部における年間スケジュールと合宿・練習状況
 - ・年間スケジュールは、春季リーグ（4~5月）、東日本インカレ（6月）、秋季リーグ（9~10月）、全日本インカレ（12月前半）の為、7~8月と12月後半~3月がオフシーズンとなり同期間に合宿実施。
 - ・合宿の目的はトレーニング（技術向上）に加え、寮生と通いの選手が在籍する為、チームビルディングにもウエイトを置く。本合宿では選手考案の沖縄観光地に関するレクリエーションにて、選手間のコミュニケーションと信頼関係の深化に取り組んでいる。機会があれば、沖縄特有のマリンアクティビティ（カヤック・SUP・フライボード等）を活用したチームビルディングにも挑戦したい。
 - ・跳躍力や足腰鍛錬の為、ビーチ（砂浜）でのトレーニングを重要視しており、屋内だけでなく毎年ビーチでの合宿を実施（前回は平塚で実施）。1回の合宿期間は7~10日間程度。次回は岩手にて合宿予定。
 - ・普段はウエイトトレーニングも実施（オン期：週1回・オフ期：週2回）。本合宿では練習メニューに無いが、事前にジムの場所やトレーニング環境が確認できていればメニューに組み込みたい。
- ② 本合宿での練習場所について
 - ・半年前（昨年8月頃）、2月上旬にてビーチ（砂浜）トレーニング可能な環境を模索している際、関係者を通じて、西原きらきらビーチを紹介され本合宿実施に至る。沖縄での合宿実施は初。

- ・本土よりも温暖で、沖縄の美しい海辺・ビーチで練習ができる環境は気持ちが高ぶり嬉しい。
- ・宿泊施設から片道20分のランニングで移動。自転車があれば移動に利用可能。
- ③ 宿泊施設について
 - ・全泊「サンライズオーシャン」利用。通常1部屋2名のところ3名で宿泊。清掃等は入らずタオル等も自身で洗濯。清潔でキッチンや洗濯機・乾燥機も整っており設備面は充実。入浴に関して3名だと順番待ちの時間の懸念があったが特段、問題無し。時計が有れば尚良し。
- ④ 食事環境について
 - ・朝食・夕食は宿泊施設で各部屋自炊にて対応。スーパーも至近で食材調達は問題無し。炊飯器が有れば尚良し。昼食は弁当（ほっともつと）を手配。練習場所から数分の距離にあり時間ロス無し。
- ⑤ 医療・ケア体制について
 - ・本合宿では関係者を通して、24時間体制で受診可能なトレーナー・整形外科と連携済み。
 - ・合宿時は常にトレーナーと連携し、医療・ケア体制を充実させている。
- ⑥ 地域交流について
 - ・普段より、大学にて主に中高生を対象としたバレーボール教室を開催（年4~5回程度）。
 - ・中高生向け教室での技術指導や質疑応答等の交流は慣れているが、本合宿で実施する交流試合（2/10知念高校・2/11西原高校）は経験が無く、選手たちは少々不安に感じている。
 - ※交流プログラム当日は交流試合に加え、当初予定に無かった町内小中高生のバレーボール経験者を対象としたバレーボール教室を開催。ポジションや学びたいスキルに合わせて複数グループに分けて行い、参加者は大学生からスキルアップに繋がる動きやトレーニングを真剣に学んだ。

（一社）アスリート工房代表：インタビュー結果①



日時：2026年1月30日（金）14:00~15:00

場 所：那覇市内飲食施設（那覇市おもろまち3丁目6-14）

参加者：（一社）アスリート工房代表（沖縄県マスターズ陸上競技連盟理事長）：譜久里 武 様 ツナグブリッジコンソーシアム：堂本、村尾

1. エグゼクティブサマリー

・与那原町が推進するスポーツツーリズム事業に関し、県内事情に精通するマスターズ陸上競技選手の譜久里氏より陸上・短距離種目における与那原町のスポーツ環境について、ハード・ソフト両面から客観的な評価と意見交換を行った。

・譜久里氏からは、与那原の「ロケーション・コンパクトさ」と「与那古浜公園（200mトラック・芝生）」の特性が、短距離選手の集中したトレーニングに非常に適しているとの高評価を得た。

2. 主な協議事項

① ハード面（練習環境・立地）の評価

・与那古浜公園（200mトラック・直線・芝生）の価値：

公認の400mトラックではないが、短距離選手にとっては「200mトラック」で十分に練習可能。

直線走路や芝生エリアも整備されており、ドリルや補強運動、ダッシュ練習に十分活用できる。

360度景色が見渡せる練習場は希少であり、自然を感じるロケーションは素晴らしい環境。

海風が強い日はあるが、それを活かしたトレーニングや、集中できる静かな環境が評価できる。

・「コンパクトシティ」の優位性：

練習拠点、宿泊施設、スーパー、ホームセンター等が徒歩圏内に完結している点は、県内他地域と比較しても強みである。移動のストレスがない環境は、短期集中型の合宿において選手に好まれる。

合宿では午前トラック練習、午後ジムでの筋トレが一般的の為、各施設は隣接が好ましい。

・坂道トレーニングの可能性：

町内にある坂道（高台エリア等）を活用した練習も、短距離選手の足腰強化に有効であり、メニューに組み込めるポテンシャルがある。

② 医療・ケア体制（安心安全の確保）

・「整形外科・クリニック」との連携：

譜久里氏（アスリート工房）は「ロクト整形外科」と提携しており、万が一の怪我や故障の際、一般外来で長時間待つことなく、アスリートとして優先的に診察が受けられる体制を構築している。合宿誘致において、近隣の整形外科・クリニック等と事前に調整し、連携体制を構築することで合宿の「安心感」が格段に向上する。

・「治療院・整骨院」の活用：

急患以外の日常的なケア（疲労回復、マッサージ、鍼）については、近年では小学生アスリートから治療院・整骨院を利用している。学生の成長痛の対応や怪我予防の観点からも、日常的なケアはジュニア世代から必要。

③ ソフト面・ターゲット設定

・ターゲット層：

400mトラックに固執するトップアスリート層ではなく、高校生以下の年代・層をターゲット設定するのが良いのでは。また、寒冷地（特に降雪地帯）では、冬は練習不可。冬季に暖かい沖縄の環境で「質」の高い練習を求める大学生も適していると考ええる。

・雨天時の対応：

沖縄の冬は雨も多いため、屋根付きの練習場所や、高重量を扱えるウエイトトレーニング施設（エニタイムフィットネス等）との連携確認が必須。

(一社) アスリート工房代表：ヒアリング結果②



日時：2026年1月30日（金）14:00~15:00

場 所：那覇市内飲食施設（那覇市おもろまち3丁目6-14）

参加者：（一社）アスリート工房代表（沖縄県マスターズ陸上競技連盟理事長）：譜久里 武 様 ツナグブリッジコンソーシアム：堂本、村尾

3. 譜久里氏からの提言・アドバイス

①「仮：与那原スプリント公認（非公認）記録会」の定期開催

・毎月のイベント化：

与那古浜公園の100m直線や200mトラックを活用し、毎月定期的に（例：「毎月第〇土曜日」など）タイム計測会や記録会を開催するべきである。

・独自の価値創出：

公認競技場での大会は手続きや運営が煩雑だが、与那原のような場所で手軽、かつ正確にタイムを測れる場を提供することで、「記録を測るなら与那原」「スプリントの聖地」というブランディングが可能。

・交流人口の増加：

合宿中の選手だけでなく、県内の陸上クラブやマスターズ選手、近隣の子供たちが毎月集まる仕組みを作ることで、町外からの継続的な人の流れを作ることができる。

・データの蓄積：

参加者のタイムデータを蓄積・管理し、成長を可視化するサービスと連動させれば、リピーターの確保にも繋がる。

②受け入れ側の意識改革

・単に場所を貸すだけでなく、「ようこそ」という歓迎の雰囲気や、地元住民（特に子供たち）との交流機会（陸上教室など）をセットにすることで、リピーターに繋がりがやすくなる。

③情報のパッケージ化（合宿マップの作成）

・練習場所の提供だけでなく、「200mトラックの活用法」「芝生・起伏を活用した練習方法」「怪我をした時はココ（病院）」「身体のメンテナンスはココ（治療院・整骨院）」「ご飯はココ」という各情報を一枚マップやリストにまとめて提示できれば、合宿誘致において武器になると思案。

JSAFオリンピック強化委員長：インタビュー結果①



日時：2025年12月27日（土）～28日（日） 意見交換：27日（土）10:30～12:00

場 所：沖縄県座間味村（意見交換：座間味村立児童生徒交流センター）

参加者：JSAFオリンピック強化委員長：宮本 貴文 様、ヘッドコーチ：中村 健一 様 ツナグブリッジコンソーシアム：堂本、村尾

1. エグゼクティブサマリー

・与那原町が推進するスポーツツーリズム事業に関し、セーリング競技における与那原町のポテンシャルや期待・課題感、合宿誘致の可能性と体制構築について協議した。

・JSAF側より、トップ選手強化における「座間味村（荒波・鍛錬）」と「与那原町（平水面・ユース育成の基礎練習）」の明確な役割分担が提示された。また、継続した連携協議の下、与那原町における独自の選手育成システム（アカデミー構想）の提案やグラウンドデザインの必要性が確認された。

2. 主な協議事項

① 与那原町の事業背景

・スポーツツーリズム構築事業：スポーツを活用した新たなまちづくりを推進し、交流・健康増進・地方創生の文脈で本事業を開始。3競技（セーリング、陸上、女子バレー）の合宿誘致と地域交流を実施。

・現状の課題：ハード面（スポーツ施設・宿泊施設等）・ソフト面（調整役や受入・連携体制等）の不足。

② JSAFの強化方針とエリアの役割分担

・「Hope育成プログラム」：2028年（ロサンゼルス）・2032年（ブリスベン）五輪を見据え、12歳からのユース育成～ナショナルチームへのパスウェイを構築中。

・強化選手：国際大会（世界選手権・プリンセスソフィア杯等）の成績基準で厳格に選定。年2回見直し、固定化しない。強化選手でなければJSAFからの助成金・サポート・公式対応は行えない。過去の反省から成績に基づかない「名ばかり強化」を排除しスポンサー・社会的信頼の回復を重視。

・強化拠点：座間味・鳥取（境港）・和歌山（ナショナルトレーニングセンター）の3か所に設置。

・座間味村の役割：

-風・海況の変化が大きく、外洋の荒れた海面（波高5m超）を利用したシニア・トップ層向けの「度胸とフィジカル」を鍛える場。ユース～トップレベル選手の技術向上に有効。

-10年間の付き合いの下、行政（村長）トップダウンによる迅速な支援体制（フェリー欠航時の対応、宿泊費・船賃の減免など）が確立されている。

・与那原町のポテンシャル：

-平水面（フラットな海）：ハイスピードボード（iQFOiL等）やユース世代の基礎練習に最適。

-役割：座間味のような過酷な環境ではなく、技術習得やスピード練習に特化した拠点としての価値が高い。買物や娯楽施設等は充実しておりオフタイム（リフレッシュメント）にて有効活用可能。医療面においても座間味より懸念は少ない。

⇒世代・目的に応じた使い分けが重要

③ 課題：マリーナ運営について

・指定管理者の問題：

-現在の与那原マリーナの指定管理者は、佐賀（唐津）と同じ事業者が運営しており、JSAFとの連携がスムーズでない（融通が利かない）状況にある。マリーナ内のコミュニケーション不全により、許可を得ているにもかかわらず警備員に入場を拒否される等のトラブルが多発している。

・解決策：仲介者を挟まず、「与那原町長・担当課」と「JSAF強化委員会」がダイレクトに繋がるホットラインを構築する必要がある。

④ 提案：独自の育成エコシステム（資金・施設等）

・資金循環モデル（座間味方式）：

-自治体が艇（ボート）を所有し、JSAFが助成金を使ってそれをチャーター（レンタル）することで、自治体に収益が入る仕組みを構築済み（座間味村には年間数百万円の収益）。これにより自治体は潤い、JSAFは国費で強化が可能となるWin-Winの関係。

・施設整備への提言：

-艇（ボート）を保管する艇庫は必要不可欠。屋外保管は傷みやすい。必ずしも海隣接でなくても良い。

JSAFオリンピック強化委員長：インタビュー結果②



日時：2025年12月27日（土）～28日（日） 意見交換：27日（土）10:30～12:00

場 所：沖縄県座間味村（意見交換：座間味村立児童生徒交流センター）

参加者：JSAFオリンピック強化委員長：宮本 貴文 様、ヘッドコーチ：中村 健一 様 ツナグブリッジコンソーシアム：堂本、村尾

- 「温泉・ケア施設」の重要性：セーリングは体を冷やす競技であり、また疲労回復のため、トップ選手は温浴施設を強く求めている。宿泊施設やクラブハウスに「温泉（または高機能な温浴施設）」を整備することは、他地域との差別化および誘致の決定打となる。

・合宿誘致と「強化に資する地域連携」のあり方：

-合宿誘致は「旅行代理店主導」ではなく、競技強化の目的と整合することが不可欠。行政の硬直的対応よりも現場と直接連携できる迅速な意思決定・ソフト面の対応が重要。

・アカデミー・ゴールデンキッズ育成構想：

-単なる部活動の代替ではなく、JSAF認定の「沖縄県版アカデミー」を設立し、そこから強化指定選手を輩出するパスウェイ（県内大会→強化指定→JSAF育成へ）を作ること、予算措置やスポンサー獲得が容易になる。与那原町はクラブ化・育成制度の設計次第で全国モデルになり得る可能性がある。

3. 今後のアクションプラン

①グラウンドデザインの策定

・セーリング競技においては、「とりあえず合宿誘致」ではなく、与那原町を「セーリング競技のユース育成・ハイスピード種目の聖地」とする長期的なビジョン（グラウンドデザイン）の策定を検討。

②2025年以降の継続協議

・来年度以降も「Hope育成プログラム」を軸にJSAFとの連携を模索し、連携・協力体制を構築しながら実績を積み上げていく。JSAFの強化方針と整合する形で検討することが前提。

③環境整備の検討

・宿泊キャパシティの問題解決と合わせ、選手のケアが可能な温浴施設（クラブハウス）の導入可能性を検討（「湯那原（ゆなばる）」構想）。

※与那原町内に温泉が湧出する情報を踏まえ。

【補足】

・JSAF側は、与那原町の脱炭素化への取り組みとセーリング（風を使うスポーツ）の親和性が高い点についても評価しており、環境保全・SDGsの観点での連携も有効。

・これら意見交換に加え、海上・陸上での練習見学や宿泊・食事施設、艇庫の見学も実施。

琉球ブルファイツ代表：インタビュー結果



日時：2026年2月4日（水）10:00~11:00

場 所：オンライン（Zoomミーティング使用）

参加者：琉球ブルファイツ代表（日本スポーツ協会認定バドミントンコーチ）：西平 工 様 ツナグブリッジコンソーシアム：堂本、村尾

1. エグゼクティブサマリー

- ・与那原町観光交流施設を活用したバドミントン競技の合宿誘致について、沖縄県内クラブチーム「琉球ブルファイツ」の西平代表と意見交換を行った。
- ・西平氏からは、実業団や大学チームの合宿ニーズとして「実戦形式（練習試合）」の要望が高いこと、一方で沖縄は地理的劣位（他地域への移動と比べ交通費が嵩む）であることと、県内に受け皿となるレベルのチーム（選手）が少なく、マッチングが難しい現状が指摘された。
- ・今後の方向性として、単なる場所貸しではなく、県外の複数チームを誘致して合同合宿や大会を開催するスキームなどが提案された。

2. 主な協議事項

① バドミントン合宿のニーズと課題

- ・実戦形式の需要：
実業団や大学チームは、基礎練習よりも実戦経験を積むことを目的に合宿を行う傾向が強い。
単独チームでの合宿よりも、複数チームが集まり練習試合を行う形式が好まれる。
競技の特性として選手（試合）の戦い方に地域性の違いもある等、他地域チームとの実戦機会は貴重。
リフレッシュメントやチームビルディングを目的とした合宿は基本的に行わない。
- ・マッチングの難しさ：
沖縄県内には、県外の強豪チーム（S/Jリーグ1部など）と互角に渡り合えるレベルのチームが少なく（男子は琉球ブルファイツ等に限られる、女子はさらに少ない）、練習相手の確保が課題。
レベル差がありすぎると、強豪チーム側にとって合宿のメリットが薄れてしまう。

② 与那原町観光交流施設の評価

- ・コート面数：
バドミントンコート6面という規模は、1チーム単独での合宿には十分だが、複数チームでの合同合宿や大会開催には手狭である（最低でも8面~12面程度が理想）。
 - ・トレーニング施設：
選手は日々の練習から筋トレを行う為、ダンベル等の設備は必要不可欠（トレーニング室併設は利点）。
 - ・その他：
基本的に練習・トレーニングは屋内施設で完結し、屋外でやらないといけないメニューは無し。つまり「沖縄＝温暖な気候」という優位性はあまり無い（県外は館内暖房があり沖縄より暖かい場合も）。
沖縄合宿といえば「ビーチトレーニング」というイメージが強いが、砂浜でのトレーニングをメインの目的にして沖縄に来るチームは少なく、「おまけ」的な要素であり誘致の決定打にはならない。
- ### ③ 食事について
- ・ホテル内での食事が理想的：
朝食・夕食は宿泊するホテルで提供してもらうことが理想的で、選手から最も好まれるスタイル。
食事管理のあるチームはトップの4~5チームに限定され、それ以外は自由に食事をとる場合が多い。
 - ・昼食：
練習の合間に弁当や近隣のコンビニで購入し済ませることが多い。ケータリングを呼ぶことは稀である。

琉球ブルファイツ代表：インタビュー結果



日時：2026年2月4日（水）10:00~11:00

場 所：オンライン（Zoomミーティング使用）

参加者：琉球ブルファイツ代表（日本スポーツ協会認定バドミントンコーチ）：西平 工 様 ツナグブリッジコンソーシアム：堂本、村尾

④ 医療・救急体制について

- ・事前の病院連携は必須ではない：

バドミントンは身体接触（コンタクト）がない競技であるため怪我のリスクが低く、事前に特定病院と連携体制を構築することは一般的ではない。過去の大会や合宿では、アキレス腱断裂などの怪我はあったものの、その都度の対応で済んでおり、特別なホットライン等は設けていない。全国大会や九州大会規模の大きな大会でない限り、医療従事者を常駐させることも少ない。

- ・トレーナー・ケア体制：

実業団チーム等は自前でトレーナーを帯同させることもある（1名体制がほとんど）。

その1名のトレーナーが、怪我をしていない選手のトレーニング指導と、怪我や疲労を抱える選手のケア（マッサージ等）を兼務しており、マンパワーが不足しているのが実情。

怪我の治療というよりは、「疲労回復・コンディショニング」のためのケア需要が高い。

⑤ 地域交流について

- ・トップチームの意識：

コンサドーレやJR北海道などのトップチームや育成を意識しているチームは、地域交流や子供たちへの指導に対して非常に積極的。単にプレーを見せるだけでなく、大会の準備や片付けなども手伝い、「裏方の仕事の大変さ」や「競技への姿勢」を含めて子供たちに見せたいという意図も持っている。

合宿中に時間を割いて子供たちと触れ合うことに対して、トップ選手たちは「面倒だ」とは感じておらず、むしろ楽しんでやってくれている（長時間の拘束とならないよう注意）。

3. 西平氏からの提言・アドバイス

④「複数チーム誘致による合同合宿・交流大会」のパッケージ化

- ・背景：

実業団や大学のトップチームが合宿に求めるのは、基礎練習よりも「実戦形式（練習試合）」での強化。

- ・提言内容：

「沖縄のチームと練習する」ことだけを売りにせず、「県外からレベルの近い複数チーム（2~4チーム）を同時に誘致し、沖縄でリーグ戦や合同練習を行う」というパッケージを提案。

例えば、S/Jリーグの2部や大学の強豪校など、実力が拮抗しているカテゴリーに声をかけ、「与那原に来れば、集中して質の高い練習試合が組める」という環境を提供する。

- ・地域へ期待される効果：

学生への技術指導による競技レベル向上に加え、高いレベルの実戦を地域の方々に見学してもらうことで興味・関心を高め競技人口増や健康増進が期待できる（教育的効果・社会的効果）。

一度に多数の選手・スタッフが来訪するため、高い経済効果も期待できる

参考資料：うるま市スポーツ合宿に関する消費額



	阪神タイガース (ファーム)	SAMSUNG LIONS (ファーム)	kt wiz	北海道コンサドーレ 札幌	名古屋経済大学	高校交流野球	栃木SC	NTN陸上競技部	神奈川大学	起亜タイガース	各費目合計	うるま市経済効果		
												各費目合計 (うち市内消費)	割合	
合宿期間	26日	22日	11日	5日	10日	26日	13日	11日	18日	3日	-	-	-	
宿泊地域	市内	市内	市内	市内	市内	市内	市内	市内	市内	市外	-	-	-	
参加選手人数	35人	52人	0人	8人	68人	200人	30人	11人	56人	40人	500人	-	-	
監督等人数	45人	20人	3人	2人	6人	10人	15人	3人	4人	35人	143人	-	-	
宿泊費	27,000,000円	18,076,817円	386,100円	340,000円	6,348,100円	6,104,000円	1,371,600円	1,093,950円	2,292,830円	2,737,900円	65,751,297円	63,013,397円	95.8%	
昼食費	総額	7,000,000円	4,082,750円	1,478,400円	45,200円	502,480円	872,000円	1,327,800円	135,125円	507,600円	1,094,000円	17,045,355円	16,251,355円	95.3%
	うるま市内	7,000,000円	3,882,750円	1,478,400円	45,200円	502,480円	872,000円	1,327,800円	135,125円	507,600円	500,000円			
夕食費	総額	10,000,000円	12,059,544円	5,000,000円	0円	400,000円	1,308,000円	2,235,600円	328,125円	846,000円	4,757,350円	36,934,619円	29,577,269円	80.1%
	うるま市内	10,000,000円	11,059,544円	3,000,000円	0円	400,000円	1,308,000円	2,235,600円	328,125円	846,000円	400,000円			
バスレンタル	総額	3,500,000円	2,090,000円	1,980,000円	0円	308,000円	0円	740,420円	0円	982,000円	287,571円	9,887,991円	8,898,920円	90.0%
	うるま市内	3,500,000円	2,090,000円	1,980,000円		308,000円		740,420円		280,500円	0円			
タクシー	総額	0円	800,000円	0円	0円	30,000円	0円	0円	0円	0円	171,428円	1,001,428円	751,428円	75.0%
	うるま市内	0円	700,000円			30,000円					21,428円			
レンタカー	総額	2,400,000円	1,405,800円	1,600,990円	55,472円	703,120円	0円	288,255円	203,000円	102,300円	42,222円	6,801,159円	55,472円	0.8%
	うるま市内	0円	0円	0円	55,472円	0円		0円	0円	0円	0円			
ランドリー費	総額	5,000,000円	2,887,170円	1,342,440円	2,500円	0円	100,000円	124,800円	0円	109,200円	572,000円	10,138,110円	4,441,310円	43.8%
	うるま市内	0円	2,887,170円	1,342,440円	2,500円		100,000円	0円		109,200円	0円			
施設使用料	総額	7,000,000円	519,800円	106,850円	62,180円	98,800円	200,000円	324,520円	0円	169,250円	25,400円	8,506,800円	8,506,800円	100.0%
球場設備費等	総額	10,800,000円	7,266,875円	277,200円	0円	0円	0円	0円	0円	246,400円	105,600円	18,696,075円	7,896,075円	42.2%
	うるま市内	0円	7,266,875円	277,200円	0円	0円	0円	0円	0円	246,400円	105,600円			
医療施設・健康施設利用費	総額	0円	0円	0円	0円	0円	10,000円	7,290円	19,500円	0円	0円	36,790円	10,000円	27.2%
	うるま市内						10,000円	0円	0円					
娯楽費	総額	0円	10,000,000円	5,000,000円	0円	0円	0円	0円	0円	82,000円	1,714,285円	16,796,285円	12,510,571円	74.5%
	うるま市内		8,000,000円	4,000,000円						82,000円	428,571円			
買物費・土産購入費	総額	0円	8,000,000円	5,000,000円	45,000円	2,000,000円	0円	0円	36,000円	71,878円	1,285,714円	16,438,592円	8,275,623円	50.3%
	うるま市内		4,000,000円	2,500,000円	0円	1,500,000円			7,000円	54,338円	214,285円			
合計消費額	72,700,000円	67,188,756円	22,171,980円	550,352円	10,390,500円	8,594,000円	6,420,285円	1,815,700円	5,409,458円	12,793,470円	208,034,501円	160,188,220円	77.0%	
市内消費額	54,500,000円	58,482,956円	15,070,990円	505,352円	9,187,380円	8,594,000円	5,999,940円	1,564,200円	4,588,118円	1,695,284円	160,188,220円	160,188,220円	100.0%	

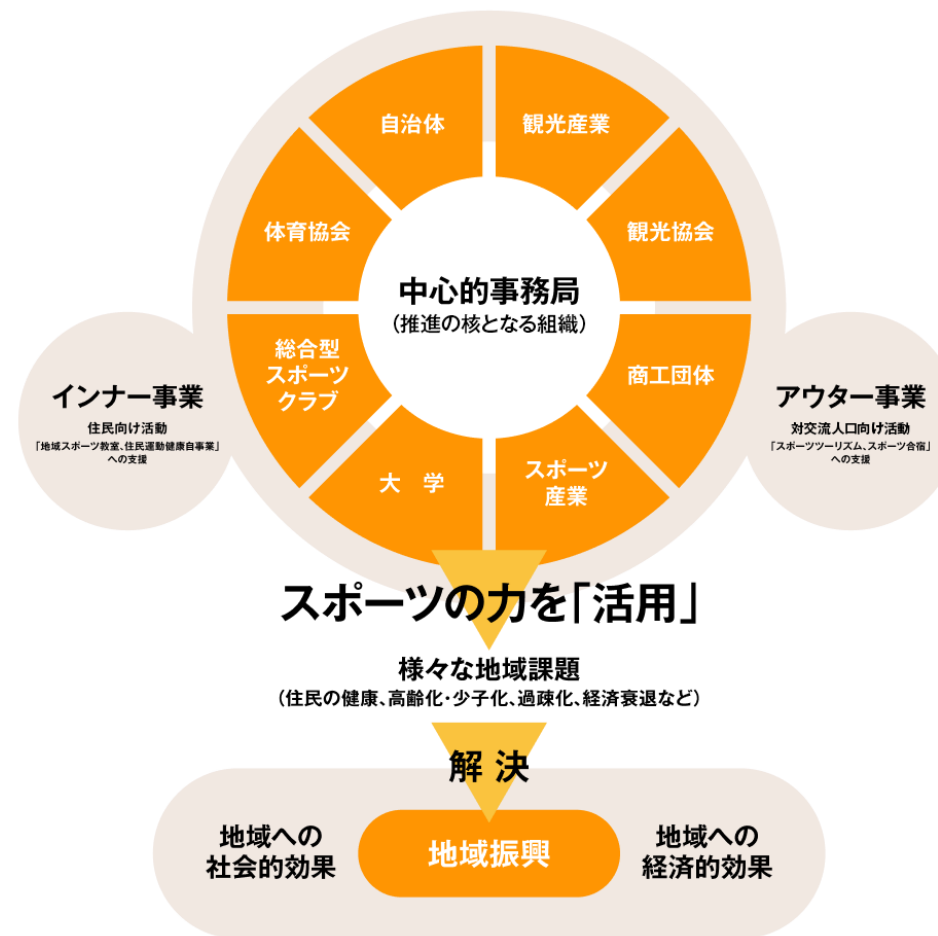
※太字箇所が「うるま市内」消費額

地域スポーツコミッションとは

ABOUT

地域スポーツコミッションは、
地方公共団体、スポーツ団体、観光団体、商工団体、
大学、企業等が一体となり、
スポーツツーリズムを中心にスポーツによる
地域振興に取り組む組織です。

「地域スポーツコミッション」(総称)



【出所：スポーツコミッションポータル】

参考資料：スポーツコミッションについて



「地域スポーツコミッションの今後の方向性に関する有識者会議」について

【開催目的】
地域スポーツコミッションが地域から必要とされ、持続可能な組織となるように、有識者を交えて地域スポーツコミッションの今後の方向性について意見交換を行い、その方向性を具体的に検討・整理する

【現在の検討内容】
地域SCへのヒアリング等を通して、現在のところ、下記6つの観点に基づいた取組・整備が重要との議論が行われている



ミッションの確立



戦略策定と評価・改善



地域課題に応じた多様な事業展開



人材の確保・育成



財源の確保・資金の調達



ネットワークの構築・継続

※現時点の検討内容であり、今後修正の可能性あり

スポーツによる地域活性化・まちづくり担い手育成総合支援事業

令和8年度予算額 (案) 126,332千円
前年度予算額 136,971千円

背景・目的

- スポーツ庁が令和6年に実施した調査では、約半数の地域SCが地方公共団体の一般財源や委託費を最大の収入源としており、事業基盤は不安定
- 地域SCが特長的に様々な活動を続けていくためには、自主事業の確立やスポンサー・協賛企業の獲得など活動財源を確保し、経営の安定化に向けた取組が必要不可欠
- また「職員数が不足している」と回答した地域SCは半数を超える中で、新規職員を「現時点で採用する予定はない」と回答した地域SCは8割を超えており、外部人材の活用も含めた担い手不足対策は急務

事業内容

(1) 地域SC経営多角化支援事業 0.6億円
地域SCが「持続可能な組織」としての成長へつなげるよう、「経営の安定化」「人材の育成・確保」に関する取組をモデル的に支援する。
① 地域SC域内での人材の育成や、専門性の高い外部人材の活用・登用に関する取組
② 協賛企業やスポンサーの獲得を目的とした、幅広い情報発信やPRを実施するマッチングイベントの開催
③ 法人化に必要な知見の提供・ロードマップ作成に対するアドバイザー等、地域SCの法人化

(2) 地域SC担い手育成等サポート事業 0.6億円

- 研修講座等の人材の育成支援メニューを充実する。
＜講座対象者（想定）＞
① 地域SC初任者や設立検討段階の担当者
② 地域SC運営・マネジメントを担うリーダー層
- 事業基盤が安定し継続的な取組を実施できている地域SCと、それ以外の地域SCとの間での人材交流を通じて、成功事例の知見・ノウハウのより効果的な展開を図る。
- 地域SCの実状に合わせた人材マッチングの伴走サポートや外部人材の活用に関する普及啓発を実施する。
○ 地域おこし協力隊の活用
○ 副業・兼業人材の活用
（令和6年度実証団体からのコメント）
・経営や事業戦略の知見はもちろん、地域SCへの知識もしっかりとっており、ピッタリな人材が採用できた。
・継続してアドバイザーとして残って欲しい。

全国に207の設置が確認されている地域SC（R6.10時点）のステータス分析及びその結果に基づく分類整理を行い、中長期的なフェーズで地域SCのホトアップに必要な取組の検討・精査を進める。

担当：スポーツ庁参事官（地域無償担当）

【出所：株式会社ランブリッジ余吾にてスライドを撮影】

令和7年度スポーツコミッションシンポジウム（2026年2月17日）でスポーツ庁参事官より、令和8年度のスポーツコミッションの在り方が発表された。
重点項目としては、「ミッションの確立」「戦略策定と評価・改善」「地域課題に応じた多様な事業展開」「人材の確保・育成」「財源の確保・資金の調達」「ネットワークの構築・継続」の6つが挙げられた。

参考資料：与那原町マリンタウン地区基本計画



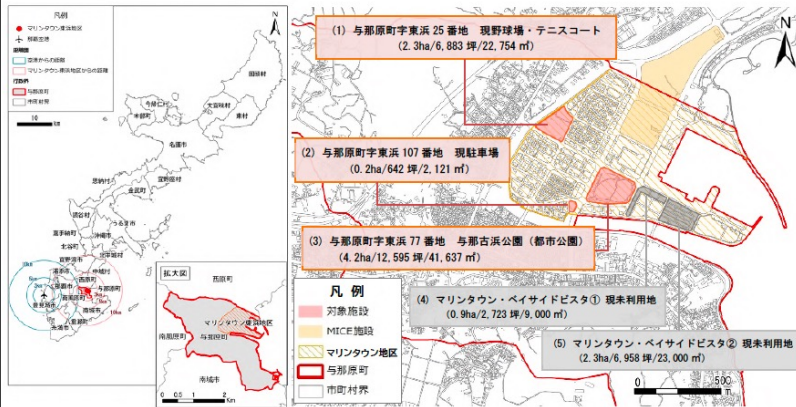
与那原町マリンタウン地区 公有地土地利用基本計画 【概要版】

1 基本計画の位置づけ

与那原町マリンタウン地区公有地土地利用基本計画は、本町の上位関連計画及び基本構想等に基づき、民間活力を活用した新たな土地利用を図り、マリンタウン東浜地区の魅力の向上と地域経済の活性化を図ることを目的として、事業スキームや施設の機能・規模等の方向性を示すものである。なお、アフターコロナやSDGs、脱炭素、DX等といった世の中の潮流を踏まえつつ、沖縄県の目指すスポーツツーリズム等を通じた沖縄観光ブランドの形成を推進する計画となるよう整合を図るものとし、今後は基本計画に沿って事業を進めていくことになる。

2 対象地区の概要

対象地区の範囲と対象地の情報を以下に整理する。
対象地区は沖縄県の東海岸南部にある与那原町内の海に面した東海岸側に位置している。
基本計画では、東浜 25 番地、107 番地、77 番地、マリンタウン・ベイサイドビスタ①、②のうち、実現可能性を鑑みて、県の所有地であるベイサイドビスタ①、②を除く、東浜 25 番地、107 番地、77 番地の 3 街区を先行して進めていく。



(1) 与那原町東浜 25 番地 (2) 与那原町東浜 107 番地 (3) 与那原町東浜 77 番地



敷地面積	約 2.3ha・約 6,883 坪・約 22,754 m ²	約 0.2ha・約 642 坪・約 2,121 m ²	約 4.2ha・約 12,595 坪・約 41,637 m ²
用途地域	第一種低層住居専用地域	準住居地域	第二種中高層住居専用地域
建築率/容積率	50%/100%	60%/200%	60%/200%
高さ制限	12m	なし	
地区計画	低層住宅地区(1)	沿道住宅地区(2)	集合住宅地区
現状の利用	野球場・テニスコート	駐車場	都市公園(与那古浜公園)
備考			使用料、公募対象公園施設の建築可能面積は参考資料参照

3 基本方針

民間事業者へのサウンディングの結果を踏まえて対象地ごとの導入機能の方針を以下に整理する。

公有地土地利用のコンセプト：スポーツツーリズム			
方針：3街区(東浜25番地、107番地、77番地)を整備し、対象地間の連携強化を図る			
対象地	スポーツ・ウェルネス 拠点 (東浜25番地)	宿泊・滞在拠点 (東浜107番地)	芝生の交流拠点 [与那古浜公園] (東浜77番地)
期待するサービス・機能	・近隣にあるスポーツ施設への合宿や自主トレ等との連携 ・アスリートのトレーニング・ケアの対応(スポーツ施設も含む) ・地域住民の心身の健康の維持促進	・スポーツ合宿、一般宿泊の受入れ ・ビジネス対応機能(リモートワーク、ワーケーションへの対応) ・飲食店の機能	・賑わい創出の促進 ・公園利用者の利便性促進
施設イメージ	・トレーニング・ケア機能、各種スポーツが実施可能な機能、新たな価値を創造する機能等を持ち合わせた複合施設 	・宿泊施設 	・カフェ・飲食店(及びランニングステーション等の付帯施設)
整合を図るべき取組	・脱炭素に関する取組 ・減災に関する取組		
事業期間	20年以上	20年以上	20年
事業手法	事業用定期借地	事業用定期借地or売却	Park-PFI
用途地域	第一種住居地域以上	準住居地域 (現行用途)	第二種中高層住居専用地域 (現行用途)

4 今後のスケジュールの想定

対象地ごとの今後のスケジュールの想定は以下の通り。ただし、現時点での想定であり、変更となる場合がある。

	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
東浜 25 番地						
東浜 107 番地	基本計画 策定	公募 事業者決定	基本設計 実施設計	工事施工		供用 開始
東浜 77 番地						